

鍊、及軍事思想ノ四種トス

下級生(一二年)ニアリテハ矯正、規律、鍛鍊、軍事思想等ヲ平等ニ課スト雖モ特ニ各個教練ニ重キヲ置ク三年級ニアリテハ徒手部隊教練及執銃各個教練ヲ課シ特ニ鍛鍊ノ度ヲ多クス上級(四五年)ニ至リテハ多ク執銃教練ヲ課シ規律鍛鍊ノ度ヲ益多カラシメ兵役ノ義務ニ服スベキ準備ヲナサシメンコトヲ期ス

以上ノ項目ハ單獨ニ行フコトアレモ多クハ數種ヲ配合スルヲ常トス

各時間ノ目的ヲ定メタルキハ要目ノ示ス所ニ從ヒ各個教練部隊教練、器械体操、射撃及講話等ヲ適宜參酌シテ教授案ヲ作ル

教授ノ形式

最初數分間ハ其時間ニ於ケル教課ノ準備トシテ適當ナル各個教練又ハ徒手(器械)体操ヲ課シ豫備運動トス

次ニ本課ニ移ル各個教練部隊教練器械体操等ヲ課シ嚴格ニシテ活氣アル運動ヲ行フ

最後ニ呼吸運動ヲ課シ時間ヲ終フ

教授上ノ注意

(三) 一、全時間ニ通ズル目的及其時間ニ課セントスル種々ノ演技ニツキ生理解剖上ノ目的及精神上ノ

目的ヲ示シ生徒ヲシテ其技ノ自己ノ心身上ニ及ボス影響ヲ知ラシメ其點ニ注意シテ之ヲ行ハシムベシ

二、最初ヨリ完全ナル動作ヲ要求セズ先ヅ細部分ニ分解シ各局部ヲ完全ナラシメ逐次完全ノ形態ニ及ボスベシ

三、新教材ヲ授クルニ當リテハ先ヅ教師ガ模範ヲ示シ生徒一同ヲシテ之ヲ行ハシメ其成績ヲ見テ一般ニ通ズル缺點ハ全生徒ニ説明シ個人的ノモノハ各個人ニツキテ矯正スベシ

四、体操科前後ノ時間、該時間内ニ於ケル生徒ノ心身ノ状態及天候等ヲ參酌シテ適宜日程ヲ變更スベシ

五、姿勢服裝等ハ常ニ注意シ置キテ十分矯正スベシ

六、剛健耐久ノ體力ヲ檢スル爲メ時々強キ運動ヲ課シ若クハ同一技ヲ續行セシムベシ

七、遊技ニツキテハ特ニ規律禮讓ニ注意シ且快活勇壯ニ行ハシムベシ

第六節 補缺授業及劣等生補習授業

一、補缺授業

世或ハ説ヲナスモノアリ曰ク「近時中學生ノ負擔日ヲ追ウテ益増加シ教授ハ多ク注入ニ傾ケル結果生徒ハ皆常ニ役々トシテ所定ノ課業ニ忙殺セラレ退イテ自ラ研鑽發明シ或ハ徐ロニ休養安息スルヲ得ズ

日夜恰モ教師ノ傀儡子タルガ如キ觀アレバ往々ニシテ起ル教師ノ缺勤時ニハ生徒ノ自由ニ一任シ全ク遊息セシメザルマデモ自習位ニ止ムルヲ可トス」ト是亦一理ナキニアラズ然レドモ高年級ノ生徒ニシテ且平素訓練ノ十分ニ行届キタランニハ時ニ此法ヲ行フモ或ハ不可ナキニ似タレドモ低年級生徒ニアリテハ所謂自習ノ何モノタルカヲ解セズ、宛然其時間ヲ休業視シテ雜談閑事等ニ消費スルハ明カナルノミナラズ更ニ進ンデハ心竊ニ教師ノ缺勤ヲ希フニ至ルガ如キ不條理ノ觀ヲ呈スルコト、ナルベク訓育上大ニ寒心スベキコトナレバ猶補缺授業ノ制ヲ設クルヲ當レリトス當校ニテハ教官缺勤ノ場合ニハ適宜當該學年擔任教官又ハ同一學科擔任教官中ニ就キテ補缺セシメ或ハ缺勤教師ノ希望ニヨリテ一定ノ仕事ヲ課シ他教師之ヲ監督スルコト、セリ從ツテ缺勤届ハ成ルベク早く差出サシメ一方ニハ補缺授業ノ準備、他方ニハ生徒自習ノ便ヲ與ヘ且一般ノ教官ハ常ニ補缺授業ノ教材ヲ準備スルコト、セリ第一ノ場合ニハ補缺教官ハ後ニ其時間ヲ返却スルコトアリ第二第三ノ場合ニハ多ク復習練習製作發表ニ屬スルモノヲ課ス

二、劣等生補習授業

之ヲ概シテ劣等生ト稱スレドモ其中自ラ區別ナキ能ハサレバ從ツテ其取扱方法モ亦異ラザル可ラザルヤ論ナシ彼ノ所謂低能兒ノ類ハ中學校ニ於テハスデニ入學試験ノ關門ニ防遮セラル、ヲ以テ之ヲ省クトスルモ

一、精力薄弱ヨリ來レルモノ

二、年齢幼少(比較的)其他ノ原因ニヨリテ心力ノ發達遲緩ナルモノ

三、最初ヲ解スル能ハザルヨリ自棄セルモノ

四、勉強法ヲ知ラザルモノ

五、遊惰ニシテ不勉強ナルモノ等アリ

補習授業ノ豫備トシテ特別ニ体操科ノ補助ニヨリテ其體質ヲ改良スル必要アリ而シテ第一第二中其ノ甚シキモノハ適宜原級ニ留メ置キテ徐ロニ其心身ノ發展ヲ待ツヲヨシトス其之ニ至ラザルモノ及ビ第三乃至第五ハ之ヲ如何ニスベキカ學力優劣別ノ學級制ヲ布キ此等ヲ劣級ニ置クモ一法ナレドモカクテモ尙其間ニ若干ノ差異ヲ生ズベケレバ箇人的ニハ補習授業ヲ盛ンニシ學科ノ了解ヲ助ケテ興味ヲ附與シ復習練習法ヲ指導シテ其學力ヲ補ヒ又其佚遊懈怠ノ心ヲ制シテ好學ノ氣風ヲ作ラシメ以テ他ト並鑠馳驅セシメザルベカラズ當校ニテハ學期又ハ學年成績ニヨリテ各科ニ亘リテ補習授業ヲ行フベキモノヲ選定シ(英數ノ二科最モ多シ)正科授業ノ前又ハ後ニ一科目ニ付キ一週二時間以内之ヲ行フコト、セリ或ハ劣等生ハ其能力既ニ不足ナレバ之ニ課スルニ更ニ二時間ノ補習授業ヲ以テスルハ酷トイフベク益々其心力ヲ萎靡セシメテ却テ不利益ノ結果ヲ來サズヤ懸念ナキニアラザレドモ補習授業ハ名ハ授業ト稱スレドモ實ハ生徒ヲ補助シテ其復習ヲ指導スルコトナレバ彼等ニ取リテハ、幾分か家庭復習ノ

勞ヲ省クト共ニ隨時質疑解惑ノ便アレバ勞少クシテ功多キ理ナリ殊ニ疎懈怠慢ニシテ復習ヲ等閑視スル生徒ヲ率キテ精勵勤勉ノ習慣ヲ得シムル點ヨリ考フルモ其効果ノ少々ナラザルコトハ年來ノ經驗ニ徴シテ確信スル所ナリトス

第七節 學習上ノ心得

一 一般心得

- 一、學習事項ニ對シテハ常ニ自ラ進ミテ研究スルコトヲ務ムベシ
- 二、凡テ疑問ノ點ハ自ラ之ヲ明ニセンコトヲ期シテ猥ニ他ニ依頼スベカラズ
- 三、豫習ノ際ハ不明ノ點アラバ摘記スベシ
- 四、學習ノ際ハ專心攻學スベシ
- 五、復習ハ當日必ズ之ヲ行フベシ
- 六、既習事項ハ常ニ復習スベシ
- 七、復習ハ當日又ハ最近ノ事項ノミナラズ時々全部ニ及ブベシ
- 八、解式直譯講義録ノ類ヲ使用スベカラズ

修身科

- 一、教育勅語ノ御趣旨ヲ奉體スベシ

- 二、學習ノ際ハ靜肅ヲ旨トシ雜念ヲ起ササルヤウ心掛クベシ
- 三、學習事項ハ務メテ實踐躬行ヲ圖ルベシ
- 四、嘉言善行ハヨク之ヲ記誦スベシ
- 五、常ニ修德ニ心掛ケ理想高クシテ己ノ及バザルコトヲ反省スベシ
- 六、常ニ社會ノ出來事ニ留意シテ中正ナル判斷ヲナスコトニ務ムベシ
- 七、禮儀作法ヲ守ルベシ

二、國語及漢文科

1. 講讀科

豫習心得

- 一、特ニ豫習ニ重キヲ置クベシ
- 二、語句ノ解釋ヲ第一トスベシト雖モ大意ヲ領スルコトヲモ務ムベシ
- 三、難字語句ハナルベク字書ニヨリテ檢索シ置クベシ

受業心得

- 一、語句ノ解釋ト大意ノ領略トハ其何レニモ偏スベカラズ
- 二、字義大意等ノ必要ナルモノハ摘寫スベシ

- 三、漢字假名遣ヲ記憶シ又語彙ヲ豊富ニスルコトヲ務ムベシ
- 四、發音ヲ正確ニシ方言訛音ヲ避クルコトニ注意スベシ
- 五、單ニ形式ノミナラズ思想趣味ノ會得ニ務ムベシ
- 六、朗讀ノ際ハ句讀聲調抑揚緩急等ニ注意スベシ

復習心得

- 一、家庭ニテ一二度ハ必ズ朗讀スベシ
- 二、語句ノ辨似ニ注意スベシ
- 三、漢文又ハ近古文ノ或モノハ其思想ヲ今日ノ思想ト比較スベシ
- 四、妙文佳句詩歌格言ノ類ハ諷詠暗誦スベシ

2. 文法作文科

豫習心得

- 一、常ニ事物ヲ精細ニ觀察シ又學習事項ヲ記憶シテ文章ノ資料ヲ作ルベシ
- 二、所好ノ語句文章ヲ暗記スベシ

受業心得

- 一、構想下書清書ノ順序ヲ守ルベシ

- 二、文法又ハ文話ノ應用ヲナスコトニ注意スベシ
- 三、推敲又ハ交互添削ニ力ヲ注グベシ
- 四、文法科ニアリテハ記憶ヲ重ンジ又論理的陳述ヲ務ムベシ
- 五、文法科ニアリテハ口語ト文語、近古文ト今文トノ比較ニ注意スベシ

復習心得

- 一、添削ヲ經タル文章ハ數回讀試ミ特ニ訂正又ハ注意ヲ受ケタルコトハヨク之ヲ記憶スベシ
- 二、復文又ハ譯文ヲナシ試ミルベシ
- 三、全一題目ノ下ニ二文以上ヲ作り試ミルベシ
- 四、文法科ハ練習ノ學科ナリ必ズ常ニ反覆練習シ之ヲ講讀科作文科ニ應用スベシ

3. 話方書取習字科

豫習心得

- 一、常ニ文章、談話等ノ模範的ナルモノニ留意シ又講讀科其他ニ於テ漢字假名遣ニ注意スベシ
- 二、習字科ニアリテハ手本ヲ精密ニ觀察スルコトヲ務ムベシ

受業心得

- 一、發音ヲ正確ニシ方言訛音ヲ避クルコトニ注意スベシ

- 二、雅醇ニシテ精確ナル言語ヲ用ヒ又繁簡其度ニ適スルコトヲ務ムベシ
- 三、句讀聲調抑揚緩急等ニ注意スベシ
- 四、書取科ニアリテハ類似ノ文字語句ニツキテ其異同ヲ明確ニシ字畫ノ明瞭整齊及ビ速筆ナラシムルコトニ注意スベシ
- 五、習字科ニアリテハ形似ヨリ筆意筆力ユ及ビ又前回ニ訂正セラレタル點ニ注意スベシ
- 六、習字科ニアリテハ摹寫臨寫背寫相並行スベシ

復習心得

- 一、談話又ハ書字スル際ニハ常ニ本科ノ注意ヲ守ルベシ

4. 英語科

豫習心得

- 一、一學年生ハ豫習スル必要ナシ二學年第二學期以後ニ於テハ必ズ豫習スベシ
- 二、字書ヲ用フル時ハ發音、意義、活用及變化、同意義ノ語等ヲ調フベシ
- 三、豫習ノ際ハ讀方ヲモ練習シオクベシ
- 四、豫習ハ前日ニナシ置クハ勿論必ズ當日ノ朝再ビ之ヲナスベシ

受業心得

- 一、教場内ニテハ成ルベク英語ヲ用フベシ
- 二、教師ノ問ニ對シテハ躊躇ナク明瞭ニ答フベシ

復習心得

- 一、一學年生ハ豫習ヲナサル代リニ復習及ビ練習ニ全力ヲ注グベシ
- 二、復習ニハ精粗ノ二法アリ常ニ之ヲ並用スベシ
- 三、學習事項ハ全部暗誦シ得ル程度迄ニ復習スベシ
- 四、英語ハ練習ノ學科ナリ單ニ記憶スルニ止メズ自由ニ之ヲ使用シ得ルニ至ルヤウ注意スベシ

5. 歴史科

豫習心得

- 一、參考書ヲ熟讀シ年表ト對照シテ年代ノ觀念ヲ正確ニシ置クベシ
- 二、略年表ヲ調製シ置クベシ

受業心得

- 一、時代ノ概況ヲ捕捉セン事ニ務ムベシ
- 二、常ニ前時代ト比較シテ其原因結果ノ關係ニ留意スベシ
- 三、史實ハ取リテ以テ人格修養ノ資トスベシ

復習心得

- 一、學習事項ハ種々ノ方面ヨリ觀察シテ事件ノ真相ニ到達センコトニ務ムベシ
- 二、常ニ現代ノ文化ト比較スルコトニ留意スベシ
- 三、各時代毎ニ史實ヲ統括スルコトニ留意スベシ
- 四、日本史、東洋史、世界史比較年代表ヲ造リテ彼我史實ノ連絡ニ注意スベシ

6. 地理科

豫習心得

- 一、地圖ト對照シテ參考書ヲ熟讀シ置クベシ
- 二、白地圖ヲ描キ來ルベシ

受業心得

- 一、自然ト人生トノ關係ニ着眼スベシ
- 二、文化ノ趨勢ニ留意スベシ
- 三、他國ト我國トノ國勢ノ關係ニ注意スベシ
- 四、白地圖ニ必要事項ヲ記入シテ完成圖トナスベシ

復習心得

- 一、學習事項ハ地圖上ニ表ハスコトヲ務ムベシ
- 二、種々ノ統計圖表及ビ摘要ヲ作成スベシ

6. 數學科

豫習心得

- 一、最近ニ教授セラレタル事項ヲ熟知シ置クベシ
- 二、算術及代數科ニ於テハ例題ヲ幾何科ニ於テハ定理及定理系ノ示ス意義ヲ研究シ置クベシ

受業心得

- 一、問題解キ方ノ要領ヲ理會スルコトニ務ムベシ
- 二、演算ハ敏速ナランヨリモ明瞭正確ナランコトヲ主トスベシ
- 三、算術科ニ於テハ主トシテ計算法ニ熟達シ且實際上ノ問題ヲ正確ニ解クコトニ心掛クベシ
- 四、代數科ニ於テハ數及數ノ計算ニ關スル理論ヲ明カニシ應用問題ヲ簡明ニ解クコトヲ務ムベシ
- 五、幾何科ニ於テハ論理正確ナランコトヲ要シ命題ノ要點ヲ確實ニ記憶シ、定義ノ如キハ暗記スベシ

復習心得

- 一、常ニ自ラ問題ヲ作リテ練習スベシ
- 二、演算ノ結果ハ之ヲ宿題帳又ハ運算帖ヘ記入シ置クベシ

三、算術代數科ニ於テハ解答數ノ多カランヨリモ解答ノ確實ナルヲ主トスベシ
四、幾何科ニ於テハ定義定理ハ勿論練習問題ノ如キモ正シキ言語ニテ復演スベシ

7. 博物科

豫習心得

一、最近ニ學習セシ事項ヲ熟知シ置クベシ

受業心得

一、實物ノ觀察ニ注意スベシ

二、學習要項ヲ摘寫スベシ

復習心得

一、學習事項ハ必ず實物ニツキテ復習スベシ

二、學習事項ハ之ヲ他ノ自然物ニ應用センコトヲ試ミルベシ

8. 物理化學科

豫習心得

一、教室ニ揭示セル豫定表ニ注意シ、其事項ニ關スル自己ノ經驗ヲ集メオクベシ

二、教科書又ハ參考書ニ就キテ新ニ學バントスル事柄ヲ自修シオクベシ

受業心得

一、實物及ビ實驗ノ觀察ニ注意シ其要點ヲ看取スベシ

二、教科書外ノ事柄ニテモ重要ナル事項ハ教師ノ説明ヲ摘寫スベシ

三、自ラ實驗ヲ行フ時ハ其方法ニ留意シ、又ヨク其結果ヲ觀察スベシ

復習心得

一、學習事項ハ可成日用ノ器物等ヲ應用シテ自ラ實驗ヲ行フベシ

二、既得ノ智識ヲ以テ日常目撃スル自然現象ノ説明ヲ試ミルベシ

三、學習後教科書又ハ參考書ヲ熟讀シテ智識ヲ確メ置クベシ

9. 圖畫科

一、常ニ事物ヲ精細ニ觀察シテ描寫スルコトニ留意スベシ

二、適當ノ時間ニ於テ練習ヲ怠ルベカラズ殊ニ臨本ニ據リテ自習スベシ

三、外出ノ際ハ成ルベク寫生帳ヲ携帯スベシ

第八節 復習及試驗

一、復習

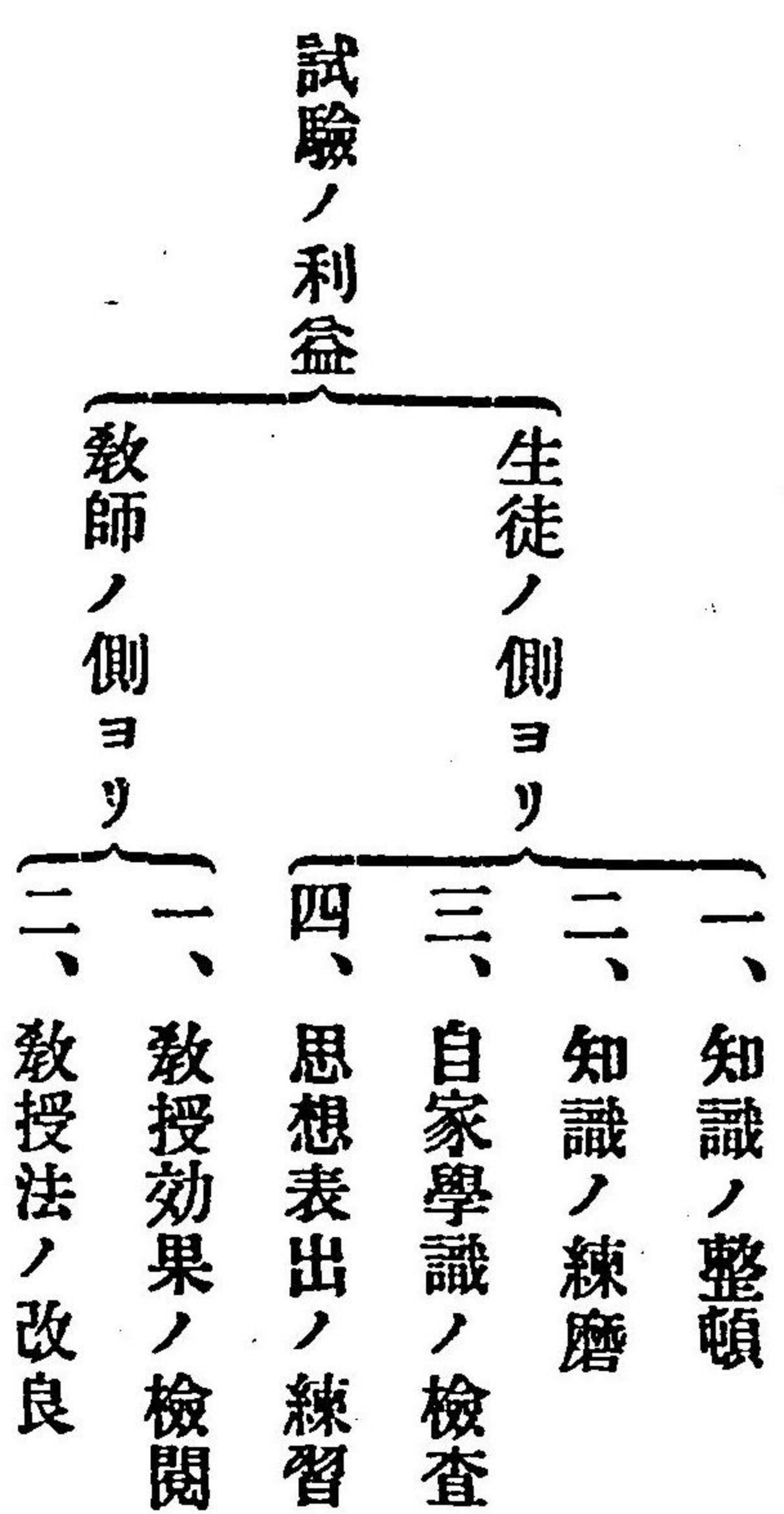
如何ナル知識モ之ヲ反復練習セザレバ自家ノ所有トナスコト能ハズ現時我國教育教授上ノ缺點種々

アレドモ其中ニ於テ生徒ノ知識ノ不明瞭ナル點コソ最モ世ノ非難ヲ受クル所ナレサテ此ノ知識不明瞭ノ原因ハ教材ノ多量多岐ニ亘ル點ニモアラン或ハ其統括ノ不十分ナル點ニモアラン然レドモ要ハ知識ノ系統ヲ作ラザルト之ヲ反覆練習セザルトノ二點ニ歸スベキヤ疑フベカラズ

是ヲ以テ我校ニ於テハ復習ニ重キヲ置キ小復習トシテハ毎時毎週適宜復習ヲナサシメ更ニ大復習トシテハ每學期末(試験前)ニ於テ復習日ヲ設ケ生徒ノ質疑ニ答ヘ其學期間ニ於ケル知識ヲ整頓スルコトニ意ヲ用ヒ休業ノ際ニハ必ズ復習ヲ命ジ又年表、地圖統括表作文習字標本等ノ成績物ヲ提出セシム

二、試験

試験ノ利害ハ世上幾多ノ論難アル所ニシテ其施行方法ニヨリテハ弊害百出ノ憂ナキニアラザレドモ當校ハ左ノ如キ見地ニ於テ試験ヲ重要視シ且嚴密ナル注意ヲ拂ツテ之ヲ執行セリ



試験ノ種類ハ分ツテ二トス一ハ臨時試験トシ每學期內ニ於テ二回以上平素授業ノ際隨時之ヲ施行シ(全ク豫告セズ)一ハ學期試験トシ每學期、末日ヲ定メテ之ヲ行フ此際ハ試験後、説明日ヲ設ケ或ハ試験成績ノ評價ヲナシ或ハ模範答案ヲ示シ或ハ口述ニ由リテ思想表出ノ要點ヲ示シ以テ生徒反省ノ資トス

此等臨時學期兩試験ノ得點ハ適宜平均シ十點法ヲ以テ表示シ生徒ニハ評語ヲ以テ報告ス甲ハ九點以上乙ハ七點以上丙ハ五點以上丁ハ四點以下トス總平均ノ評語ハ八・五以上ヲ甲トシ六・五以上ヲ乙トシ六・四以下ヲ丙トス

茲ニ附記スベキハ入學試験ノコトナリ當校ハ之ヲ學科口頭體格ノ三種ニ分チ學科試験ニ及第シタルモノニ非レバ他ノ口頭試問體格檢査ヲ行ハズ學科試験ハ國語算術ノ二科トシ成ルベク之ヲ多クノ分科ニ分チテ採點シ總點ニ於テ高點ナレドモ或分科ニ於テ非常ニ劣レルモノハ之ヲ棄テ凡テノ分科ニ普通以上ナルモノ、中ニ就キテ總點ノ高キ者ヨリ選拔ス而カモ一回ノ試験ハヨク生徒ノ學力ヲ知悉スルコト能ハズ俊秀ヲ逸シテ驚駭ヲ獲ル恨アルヲ以テ口頭試問ニハ經歷家庭ノ狀態學科ノ好惡等ニツキ發問シテ應答ノ間人物言語發音行爲體質等ノ觀察ヲナシ體格檢査ハ最モ周到嚴密ナル方法ヲ取レリ尚、後項學費概算ノ條下ニ述ブルガ如ク中學教育ヲ受クルニハ相當ノ資産ヲ要件トスルガ故ニ出身學校ヨリハ精密ナル資産調ヲ徴シテ及落ノ一標準トシ又年齢ニツイテハ法令ハ最低年齢ヲ示ス

ノミニシテ最高年齢ヲ制限セズ此ガ爲ニ世ニハ同一學級内ニ年齢ノ甚ク不同ナルモノアリテ全般ノ教育上ニ少カラザル不便ヲ來スコトアレバ我校ニテハ特ニ滿十二歳以上十四歳以下ノ滿二ケ年間ヲ限ルコト、セリ

第三章 訓 育

第一節 訓育ノ主義

教育事業中教師ノ苦心ノ割合ニ成績ノ最モ學ガリ難キモノ、訓育ノ如キハ未ダ非ルナリ抑モ知的方面ノ鍛鍊ヲ主トスル教授ニ在リテハ教材ノ精選ニ留意シ反覆練習セシメ比較統括セシメ科學的方法ニ據リテ生徒ノ思想界ヲ整頓スレバ自ラ觀念界ノ修練ヲナシ得ルニ反シテ訓育ニ至リテハ單ニ道德的觀念ヲ明晰ニスルノミヲ以テ足レリトセズ之ヲ行爲ニ實現スルニ由リテ最後ノ目的ヲ達セザルベカラザルモノナルニ劣情ノ發作、外部ノ誘惑ハ折角明瞭ニナリシ道念ヲモ微ナラシメテ之ヲ實行ニ表ハサシムル事少ク加之彼等青少年ハ意思ノ發作薄弱ニシテ實踐的勇氣ニ乏シキ等ノ困難アリ、カクテ情意ノ教育ハ到底知的教育ト其難易ヲ比較シ得ルモノニ非ルナリ況ンヤ其行爲ハ嚴肅ナル監督ト制裁トニ由リテ始メテ正善ノ域ニ達セシメ得ルモノニシテ家庭、社會ノ有力ナル補助ニ待タザルベカラザルニ於テヤ然レドモ固ヨリ之ヲ難事業ナリトシテ等閑ニ附スベキニ非ズ學校ハ訓育ノ大綱ヲ提ゲテ生徒ニ臨

ム處ナカルベカラズ此ニ於テカ訓育ノ主義ノ確立ヲ要ス

我國民道德ノ標準ニ至リテハ明治二十三年十月三十日御下賜ノ教育勅語ニテ既ニ明示セラレタレドモコハ尙全般的、普遍的ノ大綱ナレバ、吾人ハ此ノ聖旨ヲ奉戴シテ更ニ其地方ノ特色ト刻下ノ狀況トヲ考慮シ最モ切實ナル者ヲ選擇シテ其綱領ヲ定メ日常行爲ノ規正ヲナサザルベカラズ當校ハ即チ

1. 教育勅語ノ御旨趣ニ則リ
2. 我國民性發達ニ鑑ミ
3. 更ニ現在ノ社會ヲ大觀シテ其要求ニ顧ミ
4. 更ニ其地方ノ通有性ヲ察シテ

四箇條ノ生徒訓條ヲ規定シテ之ヲ訓育ノ主義トナセリ生徒訓條左ノ如シ

- 一、規律ヲ守リ禮儀ヲ正シクスベシ
- 一、師長ヲ尊敬シ命令ニ服従スベシ
- 一、誠實ヲ旨トシ言行ニ表裏アルベカラズ
- 一、勤勞ヲ重ンジ時間ヲ空シクスベカラズ

第二節 生徒訓條ノ説明

一、規律ヲ守リ禮儀ヲ正シクスベシ 我國過去ノ社會ニアリテハ階級制度確立シテ上下ノ秩序整然タ

リシガ封建制度ノ破壊ト共ニ舊禮頹廢シ秩序混亂シ殊ニ世ハ人材ヲ要スル事ニ切ニシテ其人格ノ如何ヲ顧ミル暇アラザリシ爲ニ往々粗豪ニシテ野鄙ナル行動ヲナシテ顧ミザル者多ク社會モ亦之ヲ咎ムルヲ敢テセザリキ然レドモ今ヤ社會ノ秩序ハ昔日ノ比ニアラズ粗豪野鄙ニ代フルニ秩序アリ禮讓アル人物ヲ要求スル時代トハナレリ加フルニ社會生活ノ益々複雑トナルニツレテ最モ必要ナルハ規律的生活ナルガコハ又過去ニ於ケル我國民ノ短所ニシテ殊ニ青年學生ニアリテハ粗豪放慢ニ流ル、ヲ以テ寧ロ學生ノ躰面ナリトスル如キ誤解ヲ懷クモノモ少カラザル時代ナレバ我校ニ於テハ殊ニ重キヲ此等ノ矯正ニ置キ之ヲ校訓ノ主要部ニ置キタリ、而シテ一般ノ教育ハ悉ク此目的ヲ達スルニ資スルモノナリト雖モ今特ニ直接此等ノ徳目ニ關聯スル事項ヲ舉グレバ

1. 規律

イ、服裝 外面的修整ノ内面的陶冶ニ多大ノ効果アルハ明白ナル事實ナリ是ヲ以テ服裝ハ端正質素ヲ旨トシ決シテ野鄙放縱ノ態アルヲ許サズ故ニ登校ニハ必ず制服制帽、靴ゲートルヲ着セシメ時々其檢査ヲ行ヒ不備ノ態ナカラシメンコトヲ期ス但シ病氣又ハ事故ニ由リ制服ヲ著シ又ハ靴ヲ穿テ難キ場合ニハ期限ヲ定メテ保証人ヨリ届出シメ特ニ和服袴ヲ着用スルコトヲ許セリ又散歩等ノ爲ニ自家ヨリ外出スル際ハ和服袴ヲ許セドモ制帽ハ必ず之ヲ用ヒシムル事トセリ其他寒暑ヲ防グ爲ニ襟卷又ハ蝙蝠傘ヲ用フルコトヲ禁ジ雨雪ノ時ノ外ハ外套ノ頭巾ヲ被ルコトナカ

ラシム但シ夏期雨天ノ際ハ外套ノ代リニ雨傘ヲ用フルコトヲ許ス

ロ、時間 我國民ガ時間ノ觀念ニ乏シキハ識者ノ嘆ズル所ナリ當校ニテハ集合解散教室ノ出入其他一切ノ時間的約束ヲ嚴守セシメ別ニ起居ノ時間表ヲ示シ一日中ノ行動ニ規範ヲ與ヘ加フルニ動作ヲ敏捷快活ナラシムル事ニ注意セシム

2. 禮儀作法 維新以降、社會百般ノ事物ノ改廢ト共ニ禮法ノ如キモ甚シク壞頹シタルハ誠ニ恨ムベキコトナリ抑モ禮儀作法ハ文明社會ヲ潤色スル要具ニシテ内面ノ恭敬ヲ外部ニ發表スベキ道徳ノ實踐法ナリ是ヲ以テ當校ハ修身科ニ於テ作法ヲ教授シ日常坐作進退ノ上ニ之ヲ實習應用セシム但シ彼特殊ノ流派ニ拘ハルガ如キハ固ヨリ避クル所ナリ

二、師長ヲ尊敬シ命令ニ服從スベシ 古ハ君父ノ恩ニ亞グニ師恩ヲ以テシ師長ヲ敬愛スルハ實ニ我國ノ美風ナリキ是固ヨリ其教師ノ人格ノ偉大ト同一教師ガ永ク一町村ニ定住シテ其文化ノ先導者トナリシトニモ由レド社會風氣ノ敦厚淳朴ナル自ラ斯ル美風ヲ養成シ得タリシナルベシ、今日ノ社會ニ於テハ教師ノ状態ガ以上ノ如クナルヲ許サザル點モ少カラザレドモ吾人ハ又師道ノ頹廢ヲ慨歎スベキ材料ノ餘リニ多キニ驚カザルヲ得ザルナリ然レドモ教育ノ根本義ハ師長ヲ尊敬シ其命令ニ心服スルニ由リテ始メテ効果アルモノナレバ當校ニ於テハ常ニ其精神ノ涵養ヲ怠ラザルト共ニ敬禮法及稱呼法ヲ定メ内心外形相須ツテ本條ノ目的ヲ達センコトヲ勉ム

イ、敬禮法 敬禮ヲ別チテ最敬禮、敬禮、普通禮式ノ三トシ 御眞影ニ對シ奉リテハ最敬禮、校長教官其他尊長ニ對シテハ敬禮、生徒相互又ハ同輩ニ對シテハ普通禮式ヲ行ハシム、途上ニ於テ敬禮ヲ行フニハ先ヅ禮スベキ人ヨリ六歩前ニテ姿勢ヲ正シ同三歩前ニ停止シテ敬禮ヲ行ヒ其答禮ヲ待ツテ前進スルコト、ス但シ普通禮式ハ歩行ノ儘ニテ之ヲ行フ

ロ、稱呼法 稱呼ヲ正シクスルハ訓育上頗ル有力ナル方策ト謂フベシ何トナレバ言語ハ思想ノ表象ニシテ外面ノ言語ヲ規正スルハヤガテ内面ノ思想ヲ規正スル道ナレバナリ世上多クハ學友ヲ呼捨ニシ或ハ聞苦シキ言語ヲ以テ應酬シ殊ニ甚ダシキハ師長ニ品評ヲ加ヘ或ハ綽名ヲ附スル等ノコトアリ皆慨スベキコトナリ當校ニ於テハ絶對的ニ如上ノ風ヲ根絶センコトヲ期シ稱呼法ニハ嚴格ナル注意ヲ拂ヒ、毫モ輕浮放漫ノ態アルコトヲ許容セザル方針ナリ

三、誠實ヲ旨トシ言行ニ表裏アルベカラズ 由來東洋ノ道德ハ「誠」ノ一字ヲ以テ諸徳ノ中心觀念トシタリ至誠中心ニ存在シテ始メテ信實ノ言語トナリ恭敬ノ行動トシテ表ハル、モノニシテ此徳ノ修養ハ實ニ人格陶冶上ノ根本義ナリサレバ我校ニテハ特ニ此ノ徳目ノ涵養ニ留意シ言行一致、内ニ省ミテ疚シカラザル人タラシメントス此目的ヲ達スル方法トシテ反省ヲ獎勵シ日誌ヲ記サシム

1. 反省 道德ノ進歩ハ反省ニ待ツテ始メテ得ラルベシ是ヲ以テ日々一定ノ時間ニ於テ各自一日中ノ言行ヲ顧ミ其行爲ヲ反省シテ改過遷善ノ習慣ヲ附セシムルハ必要ノコトナリ當校ニテハ自己ノ過

失又ハ弱點ハ之ヲ隱蔽スルコトナカラシメ淡泊ニシテ洒落ナル行爲ヲ是認スル方針ヲ採レリ

2. 日誌 日誌ハ過去追懷ノ用ヲナスノミナラズ又自家反省ノ鑑トナルモノナレドモ日々必ズ之ヲ記入スルハ中々容易ノ事ニハ非ズ我校ニ於テハ豫メ當校選定ノ日誌用紙ヲ與ヘ(附録參看)一日中ノ行動ヲ詳記セシメ時々適當ノ方法ヲ以テ之ヲ點檢シ一ハ以テ生徒訓練ノ資トシ他ハ以テ生徒反省ノ良習ヲ與ヘンコトヲ期セリ

四、勤勞ヲ重ンジ時間ヲ空シクスベカラズ 青年學生ヲシテ勤勉力行苟モ怠慢ニ流レザル氣風ヲ振起セシムルハ極メテ大切ノ事ナリトス然ルニ今日尙勞働ヲ蔑視シ時間ノ貴キヲ忘レ日常ノ實務ヲ賤ム風アルハ慨スベキナリ我校ニ在リテハ着實勤勉質素剛健、ナル氣風ヲ長ゼシメンガ爲ニ又勞働ヲ尊重シ時間ヲ愛惜スル習慣ヲ養ハシメンガタメニ次ノ方法ヲ實施ス

1. 掃除 世ニハ往々掃除ヲ以テ學校生徒ノ課業ニ非ル如キ感想ヲ抱クモノ少カラズ是カ、ル事業ガ青年ノ品位ヲ下劣ニスルモノトスル謬想ヨリ起リタルモノナリ然レドモ掃除ヲ課スル目的ハ自治清潔、整頓ノ良習ヲ與ヘ延イテ愛校ノ念ヲ養フニアリ、サレバ我校ハ掃除ヲ分チテ小、大、特別ノ三トシ、小使室、物置及便所ヲ除キ其他ノ各部室ヲ生徒ニ分課シテ其清潔整頓ノ事ヲ掌ラシメ職員亦主管ノ部室ヲ定メ生徒ヲ督勵シ率先シテ之ニ從フ
小掃除ハ毎日生徒ヲシテ交代シテ(第二章學級編制參看)終業後直ニ之ニ當ラシメ二十分間ニ終了

セシム其ノ業務ハ黑板、牀板、四壁、窓戸等ノ掃除及机、黑板ノ拂拭トス
大掃除ハ毎週一回之ヲ行ヒ全生徒ノ半数ヲ以テ之ニ當ラシメ小掃除ノ業務ノ外牀板、窓硝子等ノ
洗淨ヲナサシム

特別掃除ハ一學期一回之ヲ行ヒ全生徒ヲ以テ之ニ當ラシメ學校ノ器物一切ノ清潔整頓、校舎内外
ノ洗淨ヲ行フ

2. 作業 自然ヲ愛シ勞働ヲ重ンジ着實ノ風ヲ養ヒ勤勉ノ習慣ヲ附センガ爲ニハ或一定ノ作業ヲ課ス
ルヲ以テ最有効ナル方法ナリトス、其方法ニツキテハ第六節ニ詳説スベシ

第三節 儀式朝會及月首訓話

凡ソ學校ニテ諸種ノ儀式ヲ舉行スル日ハ一年僅々數回ニ止マレドモ生徒ハ多ク其眞意義ヲ知ラズ若シ
クハ之ヲ輕視シテ式日ニ缺席スルモノ、多キハ世間往々見ル所ナリ是レ式日設置ノ趣旨ニモ背キ延イ
テハ訓育上面白カラザル結果ヲ來スベクレバ當校ハ最モ式日出缺席ノ監督ヲ嚴ニセリ朝會ハ每朝始業
前十五分ニ生徒ヲ運動場ニ整列セシメ先ヅ朝禮ヲ行ヒ次ニ數回ノ呼吸運動ヲ行ヒテ心身ヲ安靜ナラシ
メ終リテ約十分間教師ノ講話ヲ聞カシム講話ノ材料ハ訓諭誠告嘉言善行ヨリ始メテ各教科ニ關スル事
項逸話奇談詩歌時事等成ルベク多方面ニ涉リテ訓育ノ目的ニ資センコトヲ務メ毎週一二回嚴密ナル服
裝検査ヲ行ヒテ容儀ヲ端正ニシ以テ外ヨリ内ニ及ボス習慣ヲ得シム又時々生徒ヲシテ談話セシメ又全

校生徒ノ合併体操ヲ行フコトアリ而シテ其毎月月首ニ行フモノハ始業前三十分乃至一時間トシテ特ニ
之ヲ月首訓話ト稱シ主事之ニ當リテ實踐的訓話ヲナシ、勤惰ノ狀況氣風ノ傾向等生徒諸般ノ行爲ニ對
スル訓誡指導ヲ與ヘ以テ全校訓育統一ヲ圖ル

第四節 箇人訓練

學校教育ハ團體ノ教育ナリ然レドモ又同時ニ箇人ノ教育ナリ團體教育ノ中ニ箇人教育ヲ加味シテ箇人
ノ長所ヲ助成シ箇人ノ特性ヲ發揮スルハ近時教育者ノ頻リニ唱導スル所ナリトス而シテ此必要ハ智德
體三育ニ通ズベキハ勿論ナレドモ訓育ニ於テ最モ其著大ナルヲ見ル夫レ地位異リ境遇異リ思想異リ性
能異ル多數ノ青年ヲ陶鑄スルニ僅々一週一時同一様ノ修身談ヲ以テシテ訓育ノ目的ヲ達スルハ到底不
可能ノコトタラザルベカラズ此ノ缺陷ヲ補フ爲ニハ時々生徒ノ家庭ヲ訪問シ或ハ教師ノ私宅ニ延キ或
ハ共ニ散步シ共ニ旅行シ談笑應接ノ間ヨク彼等ノ家庭ヲ知り又其思想ヲ知り彼等ニ適應シタル訓誡諷
諭ヲ試ミ以テ其性癖缺點ヲ矯正スルコトヲ圖ラザルベカラズ當校ニ於テハ主事及學年主任ガ大凡每週
一回時ヲ定メテ上述ノ方法ヲ取り箇人訓練ヲ行フハ全ク此趣旨ニ由レルナリコレニ依リテ能ク師弟間
ノ感情ヲ融和シ意志ヲ疏通シ且從來生徒ヲ評價シテ溫柔トセシモノ却テ陰險ニ、粗暴トセシモノ却テ
豪放ナル等彼等ノ眞面目ヲ解シ以テ教育上ノ參考トスルヲ得ル等其ノ効果ノ少ナカラザルモノアルヲ
認ムルナリ

第五節 性行會

性行會ハ每學期二回宛各學年生徒ニツキテ之ヲ開ク其司會者ハ各學年主任ニシテ關係教官悉ク之ニ列席シ初一回ハ主トシテ各教官ガ校ノ内外ニ於テ見聞觀察セル生徒ノ言行云爲及ビ箇人訓練家庭訪問又ハ父兄會等ヨリ得タル事項ニツキテ所見ヲ語リ合ヒ其不良ナルモノ、矯正ニ對スル方法ヲ論ジ後一回ハ主トシテ前會及ビ其他ノ事項ニ基キテ操行點ヲ評價ス評價ノ方法ハ具象的事實ヲ重ンジテ感情的抽象的ノ議論ヲ取ラズ單ニ外面的形式的ニ走ルコトヲ避ケテ成ルベク其真相ヲ捉ヘンコトヲ期シ又生徒ノ言行才幹學識等多方面ニ渡リテ所謂其全人物ヲ直觀的ノ方法ニ據リテ評價スルコト、セリ彼ノ一定ノ標準ヲ定メ煩瑣ナル德目ヲ舉ゲテ一々彼等ノ性行ヲ律スルガ如キコトヲナサルハ是徒ラニ煩冗ニ流レテ真相ヲ穿テ難ク形式ニ驚セテ精神ヲ逸スル恐アレバナリ

第六節 作業

作業科ノ目的ハ勤勞ノ良風ヲ養ヒ兼テ肢體ヲ强健ニシ各種ノ技術ニ慣レシムルニアリ之ヲ別チテ

- 一、校舎、校庭ノ掃除、修繕等
- 二、學校園ニ於ケル作業
トス今校舎校庭ノ掃除及修繕等ヲ略シ學校園ニ於ケル作業ノ概略ヲ述ベントス
- 一、學校園ニ於ケル作業科ノ目的

一、情意ノ教育ニ關聯セル方面

- (イ) 勞働ニ對スル趣味ノ養成
 - (ロ) 自然界ニ對スル美感ノ純化、及自然物ニ對スル愛情ト保育ノ念トヲ養フコト
 - (ハ) 研究的興味ノ養成
 - (ニ) 生徒ノ個性ノ觀察
- 二、智育ニ關聯セル方面
- (イ) 物理化學科及博物科ニ關係セル實驗的研究及實物觀察ノ機會ヲ供給スルコト
 - (ロ) 物理化學特ニ博物科ノ應用ニ關スル智識技能ノ賦與
 - (ハ) 自然物ノ實相ニ接セシムルコト

三、體育ニ關聯セル方面

- (イ) 愉快ト談笑トノ間ニ肢體ノ筋骨ヲ鍛鍊セシムルコト
 - (ロ) 實際的技術ニ對スル筋肉ノ修練
- 二、學校園ノ位置 校舎校庭ノ間ニアル空地ヲ利用セルモノニシテコノ外第一及第二寄宿舎ノ舍庭モ亦學校園ノ區域内トス
- 三、學校園ノ區分

- 第一區(内庭) 植物標本園、噴水池、諸種ノ動物飼育所、鶏舎、盆栽棚、動植物實驗場
- 第二區(理化教室南側) 材料花壇、盆栽棚
- 第三區(小學校教生室南側) 農作物園、材料花壇
- 第四區(同南ノ切) 苗圃、農作物、果樹、肥料試驗場、接木、取木、挿木、根廻シ、盆栽仕立等實驗場、花卉類
- 第五區(圖書教室南側) 盆栽、花卉類
- 第六區(本校植物教室北側) 風致園(築山)、堀抜井(又ハ池)、花卉類、藤棚、芝生、ベンチ、天文氣象觀測所
- 第七區(教官室南側) 動植物生態花壇、盆栽棚、芝生
- 第八區(本校植物教室北側) 植物標本園
- 第九區(應接室南側) 植物標本園
- 第十區(音樂室北側) 植物標本園
- 第十一區(音樂室西側土塀際) 植物標本園
- 纖維植物、染料植物、藥用植物、有毒植物、工業用植物
- 肥料小屋

- 第十二區(体操教室西側) 植物標本園
- 日本特有植物、材料植物、花卉類、記念樹類
- 第十三區(中學校北ノ塀際) 制枝果樹類、花卉類、標本園、桑園
- 第十四區(理化教室北側) 桑園
- 第十五區(博物教室北側) 花卉
- 第十六區(第一寄宿舍々庭)
- 第十七區(第二寄宿舍々庭)
- 四、作業ノ種類
 - (一) 養鶏 資本ヲ貸與シ生徒ヲシテ自ラ經營セシム
 - (二) 標本園ノ整理 植附、給水、施肥、雜草艾除、害蟲驅除、野外採集、土砂ノ運搬
 - (三) 觀察實驗飼育 施術、保護、記載、寫生、觀測
 - (四) 材料花壇ノ作業 播種、移植、給水、施肥、除草、中耕、採種
 - (五) 農作物園ノ作業 耕耘、工作、接木、挿木、取木、株分、播種、移植、給水施肥、除草、剪定、制枝、收穫、採種、土砂ノ運搬
 - (六) 盆栽ノ仕立 以上ノ外温床ノ管理、各室ニ盆栽ノ配達、取集、手入、野外ノ採集

(七) 風致園ノ作業 設計、土砂ノ運搬、池ノ掘込、植附、施肥、給水、ベンチ其他ノ工作、剪定、制枝、野外ノ採集

(八) 標本ノ製作

五、生徒ノ分擔

第五學年 甲組 第五區
乙組 第六區
第七區

養雞但内庭

第四學年 甲組 第三區
乙組 第四區

動物飼育但内庭第一區

第三學年 甲組 第八、九、十、十一區
乙組

第二學年 甲組 第十二、十三、十四區
乙組

第一學年 甲組 第二、第十五區
乙組

備考一、作業ノ都合ト天候ノ模様ニヨリテハ便宜他ノ分擔區域ノ作業ニモ服セシム

二、第十六、第十七兩區ニ於ケル作業ハ當該寄宿舎ニ於ケル舎生一同ノ分擔區域トナシ作業

科ノ時間以外ニ於テ舍監督ノ指導ノ下ニ其勞作ニ服セシム

三、各組ノ分擔區域ハ出來得ル限り之ヲ細分シ以テ個人ノ受持區域ヲ明ラカニス

六、作業時間 放課後約一時間トス但第一種ノ作業ト衝突スル場合ニハ先第一種ノ作業ニ服セシム

作業ノ時間割ハ左ノ如シ

	曜	月	火	水
週	奇	一		五
週	週	甲		甲
週	偶	一		五
週	週	乙		乙

土	金	木
三	四	二
甲	甲	甲
三	四	二
乙	乙	乙

七、監督指導 主トシテ博物科ノ教官其責ニ任ズ

但第十六、第十七兩區ニ於ケル作業ニ就テハ舍監督其責ニ任ズ

八、經費收入 經費ノ用途ハ左ノ如シ

- 一、校友會費中學校園費
 - 二、博物科手工科等ニ於ケル實驗費ノ一部
 - 三、學校園ニ於ケル收入金ノ一部
- 收入ヲ生ズル物品ハ左ノ如シ

- 九、農 具

鍬貳拾挺、スコップ拾挺、移植鍬貳拾挺、水桶柄杓擔棒共五荷、筵五枚、剪定鋏五挺、鎌貳拾枚、

如露大中小拾五個、地均シ鍬參挺

第七節 家庭トノ聯絡

教育上學校ガ家庭ニ對スル要求ヲ約言スレバ家庭ハ學校ノ主義方針ヲ熟知シテ其訓諭誠告ヲ嚴守セシメ生徒ノ性行偏癖等ニツキテハ明確ニ之ガ報告ヲナシテ共ニ其矯正ヲ謀リ常ニ同情ヲ以テ學校ノ意志ヲ貫徹セシムルコトニ助力スルト同時ニ又疑點異見等アル時ハ進ンテ學校ニ所見ヲ提出シ步調ヲ一ニシテ教育ノ眞目的ヲ達セシムルコトニ努力センコト是ナリ學校獨リ如何ニ熱中シテ事ニ當ルトモ家庭唯冷然トシテ袖手傍觀ノ態ヲ學ビ甚シキハ則チ時ニ矛盾齟齬ノ事象アルニ至ツテハ所謂一日之ヲ溫メテ十日之ヲ冷ヤス類ニシテ學校ノ勞ハ全ク徒勞ニ終ランノミ今我が校ニ於テ施行セル相互ノ聯絡ノ方法ヲ擧グレバ左ノ如シ

1. 通信簿 通信簿ハ言フマデモナク學校家庭間ノ通信機關ナレバポケット用ノ小冊子トシテ常ニ之ヲ携帯セシムルコト猶軍人ノ軍隊手帳ニ於ケルガ如クス其内容ハ左ノ如シ

- イ、生徒訓條
- ロ、保証人心得
- ハ、届出及通信欄
- ニ、學年曆略
- ホ、學費概算
- ヘ、生徒心得
- ト、學習上ノ心得
- チ、体格検査表
- リ、毎月出席調査表

体格検査表ニハ最近全國公立中學校生徒平均体格ヲ表示シテ各自比較ノ便ヲ得シム

2. 成績告知書 成績告知書ハ一葉刷ノ紙面ニ各學期及學年成績ヲ記入スルヤウニナシ各學期末之ヲ

父兄保証人ニ直接ニ送附シ閱覽後便宜ノ方法ヲ以テ返附セシムコノタメニ別ニ成績表一葉ヲ添ヘテ父兄保証人ノ轉寫ニ供フ

3. 家庭訪問 學校ニ於ケル生徒ノ生活ハ彼等ノ公生活ナリ比較的潤飾セル生活ナリ全生活ノ半面ナリ若シ他ノ半面即チ天真流露セル彼等ノ私生活ヲ檢セント欲セバ須ク彼等ノ家庭ニ就カザルベカラズ彼等ノ居室ニ就カザルベカラズコレ當校ニ於テ勉メテ生徒ノ家庭訪問ヲ怠ラザル所以ナリ家庭訪問ニ於テ豫習復習ノ狀況學科ノ好惡科外讀物ニ對スル態度及ビ外出及交友ノ状態ヲ檢シ又健康性癖ニツキテ通ズル所アランカ箇人トシテノ彼等ハ明々地ニ描キ出サルベク更ニ進ンデ家庭一般ノ狀況ヲ見又其教育上ノ注意ヲ聞カンカ彼等ヲ醞釀セル周圍ノ空氣ヲ知ルベク教育上發明スルトコロ鮮少ニアラザルベシ此故ニ第一學年ニアリテハ學年主任ハ其第一學期中ニ少クトモ一度第二學年以上ニアリテハ必要ニ應ジテ生徒ノ家庭ヲ訪問シ著大ナル事項ハ訪問録ニ記載シテ以テ性行會報告ノ材料トナス因ミニ云フ家庭訪問ノ際注意スベキハ家庭ガ其子弟ノタメニ曲庇掩護スルコトナキニアラザレバ其真相ヲ看取スベキコト是ナリ但シ把羅剔抉ノ態ヲ慎ムベキハ勿論ナリ

4. 父兄會 大小ノ二種ニ分チ大會ハ每年秋期一回、全部ノ父兄ヲ招請シ學校ノ主義方針ヲ説キ父兄ノ意見ヲ徵シ生徒成績物、統計圖表、校舍教具等ヲ觀覽セシメ學藝大會ヲ開キ又時ニ授業ヲ參觀セシム大會ハ其効固ヨリ多ケレドモ勢ヒ一般的ニ流レ易ク箇人別ニ生徒ノ父兄ト懇話スル如キハ

十分ニ行ハレ難キヲ以テコ、ニ小會ノ必要ヲ生ズ小會ハ各學年主任ニ於テ毎月一回數名ノ父兄ヲ招請シ箇人別ニ懇談款話シ學校家庭ノ聯絡ヲ密接ニセンコトヲ圖ル第二學年以上ニアリテハ時ニ之ヲ以テ家庭訪問ニ代フルコトナリ

第八節 生徒校外團

校外ニ於ケル生徒ノ言行動作ヲ指導監督スルコトハ半バ家庭ノ責任ニシテ半バ學校ノ事業ナルベシ當校ニテハ此目的ヲ達センガタメニ先ヅ生徒ノ通學區域ニヨリ十四ノ校外團ヲ設ケ(寄宿舎ハ此外)更ニ之ヲ五部ニ分チ各部校外團監督(教官)團長(五年生)副團長(四年生)各一名ヲ置キテ團員ノ統一ト風紀ノ維持トニ勉メシメ團員ハ互ニ相誘掖提撕シ互ニ相制裁誠告シ以テ學校生活ノ美點ヲ發揮シ社會ノ惡風ニ感染スルコトナカラシム又家庭ノ側ヨリハ校外團生徒ノ父兄中ニツキテ適當ノ人ヲ選ビ該團ノ取締ヲ委囑シ監督以下ノ職務ヲ補助セシムルコト、セリ

カクテ學校ト家庭トハ相伴ヒテ校外ニ於ケル監督ヲナスト共ニ又互ニ聯絡スルコトヲ得、現今各團員ハ或ハ遠足旅行ノ擧ヲ試ミルアリ或ハ讀書談話ノ會ヲ起セルアリ或ハ又小雜誌ノ類ヲ編セルアリ相競ヒテ各團ノ名聲ヲ揚ゲントスルモノ、如シ

第九節 賞 罰

賞罰ノ教育ニ必要ナル事ハ暇々スルヲ要セザレドモ思想感情ノ將ニ成熟セントスル中學生ニ對シテハ

慎重ナル方法ヲ採ラザルベカラズ今當校ノ方針ヲ掲ゲン

一、賞

賞ハ之ヲ受ケタルコトニヨリテ箇人或ハ團體ガ益々進歩發達ニ努力スルノミナラズ他ノ箇人及團體ガ之ヲ見テ鼓舞激勵セラル、ニ於テ價值アルモノナリ然レドモ其方法ニシテ一步ヲ誤ランカ學校ノ威信ヲ失墜シ訓育ノ効果ヲ減殺シ以テ其目的ヲ誤ルコト往々其例ニ乏シカラザルナリ而シテ賞ハ通常智德體力ノ優秀者ニ對シテ物品褒狀優待稱贊等ノ表彰法ヲ用ヒ居ルモノ、如シ然レドモ明確ニ此等ノ三方ヲ認識シ得ルハ難事ナルガ上ニ操行ノ良否ニ至リテハ其真相ヲ看破スルハ更ニ容易ノ業ニ非ズモシ教師ノ認定ガ生徒全体ノ所見ト合一セザル時ハ賞ノ効力ヲ減却スルノミナラズ却テ種々ノ弊害ヲ誘引スルコトアリ學力ノ如キモ等シク優等ナリト雖モ其原因ガ天才ニ由ルカ勉勵ニ由ルカヲモ考量セザルベカラズ天才ハ區々タル賞與ノ關スル所ニアラザレバ學校ノ獎勵スベキハ寧ロ勉勵ノ生徒ニアルベシ體力ニ至リテハ多ク一種ノ運動家即チ選手等ヲ賞スルガ如キ傾向アレドモ正シクハ平素體力ノ鍛鍊ニ留意シタル結果好成绩ヲ收メタル者ヲ賞スベキニ非ルガ斯クテ賞ヲ與フベキモノハ平素ノ修養勉勵ノ効果ガ外部ニ表ハレタル人物ナラザルベカラズ果シテ然ラバ賞ヲ與フルモノ、範圍ハ自カラ制限セラルベシ次ニ賞與ノ方法中物品授與ノ如キハ其弊多クレバ採用スベカラズ褒狀モ亦之ニ同ジ又特待生制度ハ其刺戟ニヨリテ他ニ數人ノ優秀者ヲ得ルコトモアレドモ之モ多數ノ生

徒ハ絶望シテ僅ニ數人ノ競争者ニ委シ去リ而シテ此等數人ノ者ハ非常ニ精力ヲ費シテ其ノ及バザラシコトヲ恐レテ一時ニ心身ノ活力ヲ消耗スルノミナラズ研究ノ方法ニ於テモ多クハ眞摯ヲ缺キ試験點數ノ多キヲ贏ケ得ルノミニ止マリ加フルニ所謂特待生ハ學德兼備ノ優秀者タルコト能ハズシテ概シテ智力ノ優秀者ニノミ偏スルコトアリ又同學年ニ數學級ヲ有スル學校ニアリテハ甲學級ニ其人ヲ出セバ乙學級以下モ權衡上ヨリ無理ニ其人ヲ出サントスル如キ弊害ヲ生ズルコトアリテ賞ノ良法トモ云ハレシ故ニ當校ノ賞ハ概シテ稱贊ニ止ムルコト、セリ

二、罰

賞ノ積極的ナルニ反シテ罰ハ消極的方法ニシテ苦痛ヲ與ヘテ反省悔悟ノ用ニ供スベキモノナリ而シテ其方法ハ名譽快樂利益ノ褫奪等種々アレドモ中學時代ノ生徒ニアリテハ威壓ノ方法ヨリハ寧ロ教師ノ顔容態度ニヨリテ反省ヲ促ス方効果多シトス然レドモ又頑迷執拗ノ生徒ニアリテハ或ハ名譽心ニ訴ヘ或ハ羞耻心ヲ喚起シテ忠告ヲ與ヘ叱責ヲ施シ恩威並行シテ徐ロニ悔悟ノ念ノ起ルヲ待タザルベカラズ當校ニテハ直接ノ當事者ハ主事及學年主任ニシテ箇人ヲ私室ニ招キテ膝ヲ交ヘ臂ヲ把リ深甚ノ同情ヲ以テ其資性言行ノ短所ヲ戒告シ非行過失ノ常ニ此ノ根源ヨリ發作スルモノナルコトヲ諭示スルヲ常トセリ規定ノ罰トシテハ謹慎退學ノ二アレドモ多クハ謹慎ヲ命ジ誠意ト同情ヲ以テ徐ロニ其性癖ヲ矯正シ萬止ムヲ得ザル事情ノ外ハ退學ノ所置ニ出デズ彼ノ停學ノ如キハ小人閑居ノ諺ニ漏

レズ寧ロ其非行惡徳ヲ助長セシムル恐アレバ之ヲ有効ナル方法ト認メズ

第四章 體 育

第一節 體育ノ主義

體育ノ目的ハ身体ヲ强健ニシ心意ヲ鍛鍊シ國民ノ志氣ヲ發揚スルニアルガ故ニ當校體育ノ主義モ亦全身ノ調和的發達ニ留意シ容儀ヲ端正ニシ動作ヲ敏活ニシ剛健耐久ノ体力ヲ得シメ兼テ智力ヲ進メ諸徳ヲ養フ禪補タラシメ常ニ進取ノ氣象ヲ特シ紀律ヲ愛シ廉恥ヲ重シ以テ品性ヲ堅實ナラシメンコトヲ期セリ而シテ尙三項ノ附加スベキアリ一ハ生徒ヲシテ悉ク何レカノ運動ヲ愛好セシムル事一ハ特ニ或種ノ運動ニノミ熱中スル者即チ世ノ所謂選手ト呼バル、モノヲ作ラザルコト一ハ對外競技ノ禁止是ナリ抑モ體育ノ目的ト主義ト已ニ斯ノ如ク從ツテ其利益ト効果トノ鉅大ナルモノアルハ明カナレドモ若シ輕佻浮薄、甚シキハ運動ヲ以テ一場ノ遊戲視シ又ハ疎懶怯懦ニシテ何レノ運動ヲモ行フヲ好マザル者アラバ寧ロ害アツテ益ナケン是以テ當校ニテハ各生徒ハ少クトモ必ズ一種ノ運動ヲ取ラシムルコトヲ命ゼリ然レドモ運動ニノミ偏シテ全ク他ヲ顧ミズ所謂選手ト呼バレテ得々タルモノ、ゴトキハ學生ノ本分ヲ没却セルノ甚シキモノナレバ嚴ニカ、ル傾向ヲ防止セリ又對外競技ハ浮薄ナル虛榮心ノ挑發シ少數ノ熟練者ヲシテ學校ヲ代表スルガ如キ過大ナル責任ヲ負ハシメ爲ニ過度ナル時間ト精力ト

ヲ運動ニ集注セシムル等種々ノ弊害ヲ生ジ易キヲ以テ一切之ヲ禁止セリ

第二節 科 外 運 動

本校ニ於テハ体操科ノ要旨ヲ定メテ「体操科演習ノ種類ヲ分チテ普通、兵式、競技及遊技、武道ノ四科トシ競技及遊技、武道ノ二科ハ之ヲ隨意科トス」トセリ即チ普通、兵式演習ヲ正科トシ他ノ二科ノ中武道ヲ準正科トシ競技及遊技並ニ遊戯、器械体操、全校生徒合併体操ト共ニ之ヲ科外運動ト稱シ正科以外ノ時間ニ之ヲ課スルコト、セリは一ハ身体發達ノ旺盛ナル中學生徒ノ體育トシテハ体操科ノ正科授業ノミニテハ不十分ナリト認メタルト一ハ日本固有ノ武道ガ所謂武士道的精神ヲ鼓吹スルニ適セルハ勿論諸種ノ競技及遊技モ亦智徳ノ教育ニ寄與スル點ノ尠ラザルヲ思ヒタルトニ由レルナリ科外運動ハ七部ニ分レ更ニ之ヲ主科、隨意科ニ分ツ種類ハ學年ニヨリテ多少ノ差アリ

	主 科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
	遊 戲 器 械 体 操	劍 道	柔 道	全 上	全 上	全 上
隨 意 科	野 球 庭 球 蹴 球	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上

主科ハ各學年每週二回放課後一時間宛隨意科ハ主科ナキ時又ハ主科後何レモ教官監督ノ下ニ之ヲ課ス
主科ニ就キテハ言フヲ須ヒズ隨意科タル競技及遊技ニハ紀律ヲ正シク熱心ニ行ハシメ且單ニ勝敗ニノ
ミ重キヲ置キ或ハ之ニ耽リテ學業ヲ疎ニスルコトナキニ注意シ尙演技者及聲援者ノ言行ガ卑劣、粗暴、
野鄙、輕卒ニ流ル、ヲ戒ム科外運動ハ各運動部ニ於テ時々小會ヲ開キ又毎年一回大會ヲ開催シ特ニ一
月中ニハ二年生以上ノ有志者ニ限り毎朝劍道柔道ヲ課ス

但現今ノ第四五學年ニ限り劍道柔道野球庭球ノ四科ノ中隨意ニ其一ヲ選擇セシメテ之ヲ正科トセリ

第三節 体操科演習會

体操科演習會ハ毎年春秋二回之ヲ開キ共ニ前述体育ノ主義ニヨリ左ノ事項ニ注意ス

1. 各生徒ヲシテ必ズ數種ノ運動ニ加ハラシムルコト
コハ先ニ一種以上ノ運動ヲ取ラシムトイヒ又選手ヲ作ラズトイヘル意ニシテ彼ノ体操科演習會
(世ニ所謂運動會)トイヘバ運動スルモノハ概テ少數ノ熟練者所謂選手等ニ限リテ他ハ多ク觀覽
聲援ノ地ニ立ツガ如キ觀アルハ固ヨリ運動ノ精神ニ反シ体育ノ主義ニ戾レルモノナレバ當校ノ
深ク取ラザルトコロナリ
2. 運動ヲ獎勵シ且其進歩改良ヲ圖ルコト
3. 体育上平素ノ進歩ヲ檢スルコト

衆人環睞ノ中ニ立チテ平素習得セル技能ヲ發揮スルハ客觀的ニハ成績ノ檢閲タリ主觀的ニハ意
志ノ發現タリ共ニ其効多シトス運動愛好ノ念亦コ、ヨリ其萌芽ヲ發セン

4. 團體運動ヲ取ラシムルコト

自己本位主義ニ傾クハ中學生徒通弊ノ一ナリ之ヲ矯正シテ箇人ト團體トノ關係ヲ明カナラシメ
團體ニ關スル訓育上ノ効果ヲ増進スルニハ團體運動ヲ課スルヲ可ナリトス

5. 父兄及卒業生トノ聯絡ヲ圖ルコト

6. 体操科演習會ノ方法ヲ研究スルコト

附言ス當校ニテハ優勝者ニ對シテ賞品、メダル、優勝旗ノ類ヲ授與セズ之ニ代フルニ演習會後、生徒
ヲ一堂ニ集メテ精細ナル批評ヲ試ミ其際ニ褒詞ヲ與フルコト、セリ

第五章

圖書閱覽、會合、遠足、修學

旅行及臨海授業

第一節 圖書閱覽ノ方法

青年ト讀書トノ關係ハ教育上一箇ノ難問題ナリ若シ其慾望ノ往ク所ニ任センカ亂抽妄讀底止スル所ヲ
知ラズ其時間ヲ空費シ其心神ヲ消耗スルコト舉ゲテ數フベカラズ若シ又絕對ニ之ヲ禁止センカ知識ノ

糧ヲ絶テ聞見ノ門ヲ杜ギ偏狹ニ陥リ固陋ニ傾カシメン當校ハ即チ概則トシテハ冊書新聞雜誌類ノ亂讀ヲ禁ジ之ニ代フルニ善良ナル科外讀物百數十種ヲ指定シ更ニ其中數十種ヲ選ビテ圖書閱覽室ニ備付ケ毎日授業又ハ科外運動後之ヲ繙讀スルコトヲ許シ又、或種類ノ圖書ニ限リ圖書係ノ許可ヲ受ケテ家庭ニ持歸リテ閱覽スルヲ得ルコト、セリ尙此室ニ於テハ自治ノ習慣ヲ養ハシメンガタメニ生徒ヲシテ隨意ニ書冊ヲ檢索整頓セシムルコト、セリ

第二節 會 合

1. 學藝會 學藝會ヲ分チテ二トシ通常學藝會ハ毎年四回、學藝大會ハ毎年一回秋季ニ於テ父兄大會ト同時ニ開ク共ニ平素授ケラレタル知能ヲ發表セシメ主トシテ話方、英語、圖畫、唱歌等ノ練習ヲ助ケ兼ネテ生徒相互ノ親睦ヲ圖リ亦善良ナル校風ヲ振作スル一助トス

2. 講談會 每學期一回以上之ヲ開キ左ノ事項ヲ舉行ス

- イ、偉人傑士、著名ノ大事等ヲ追懷スル爲ニ其記念式ヲ舉ゲ及ビ之ニ因メル講話ヲナスコト
- ロ、知名ノ士ヲ聘シテ其講話ヲ聞クコト
- ハ、會員ノ演說談話
- ニ、餘 興

第三節 遠足及修學旅行

1. 遠足 諸教科ノ研究、見學ヲ兼テ生徒ノ心身ヲ鍛鍊センガ爲每學期一二回遠足ヲ行フ、其前豫メ委員ノ實地踏査ニヨリテ成レル詳細ナル地圖案内記等ヲ頒與シ又之ニ關スル講話ヲナス概略、左ノ豫定表ニヨリテ實行ス其種類ニハ郊外擬戰、長距離競走、強行遠足、兎狩、登山、採集旅行、踏査旅行等アリ

時 期	目 的	方 面				
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
四 月	強行遠足	河 内	宮島又ハ瀨野	八本松、玖波又ハ吳		
五 月	長距離競走	二十日市、中野、八木、矢野、深川等				
十 月	修 學	不動院及水源池	吳	江田島	四 國	九 州
十二 月	兎 狩	隨時之ヲ定ム				
一 月	擬演戰習	擬戰 工兵作業地府中又ハ五日市				
二 月	登 山	五社宗山	武田山	極樂寺山	福王寺山	彌 山
					演習 五日市又ハ府中方面	

2. 修學旅行 修學旅行殊ニ宿泊旅行ハ其目的モ諸教科ノ研究、見學ヲ兼ネテ生徒心身ノ鍛鍊ニアルハ勿論ニシテ數日間未見ノ地ヲ踏ミ未聞ノ事ヲ聞クニ由リ平素學習ノ有効ナル補助ヲナスコトナルガ尙其他ニ生徒ハ互ニ親睦融和ノ念ヲ増シ教師ハ此機ヲ利用シテ生徒ノ個性觀察ヲ詳ニシ訓育上有力ナル機會ヲ捉ヘ得ルモノナリ當校ニテハ

第四學年生ハ四國方面(四泊)讚豫ノ地理歴史博物ノ研究ヲ目的トス高松、丸龜、多度津ノ觀光屋島ノ懷古、琴平宮ノ參拜新居濱、別子、四阪ノ銅鑛探堀、精煉ノ縱覽等ヲナサシム
 第五學年生ニハ九州方面(六泊)、關門、若松、枝光、直方地方ノ商況、福博ノ形勝、太宰府ノ故趾、大牟田ノ炭田、熊本ノ市況、阿蘇ノ登山等表九州ノ自然人文ノ研究ヲ目的トス
 費用ハ四國地方ハ五圓八拾錢、九州地方ハ七圓ノ概算ヲ以テ旅行前月賦前納セシメ費用ノ幾分ハ校友會費中ヨリ補助ス旅行中ハ起居ニ飲食ニ嚴肅ナル規律ヲ勵行シテ風紀ノ振張ニ資シ、歸來、生徒ニハ報告會ヲ開キ又詳細ナル日誌ヲ出サシム

第四節 臨海授業

臨海授業ノ目的ハ主トシテ游泳ノ技能ニ熟セシメ身軀ヲ強健ニシ精神ヲ活潑ニシ、兼ネテ諸教科ノ復習又ハ教授ヲナシ師弟間ノ情誼ヲ厚クシ以テ校風發揚ノ資トスルニアリテ當校訓育上ノ必要ナル一機關トセリ毎年夏期休業中初メノ二週間ヲ以テ之ニ充ツ實施以來今年ニ至ルマデ既ニ四回、廣島縣下ニ

於テ二回、愛媛縣、大分縣ニ於テ各一回之ヲ行ヘリ蓋シ三伏ノ炎熱ニ暑ヲ白砂青松ノ海岸ニ避ケ日ニ波浪ト闘ヒ時ニ名勝ヲ探リ或ハ讀書ニ或ハ運動ニ青年ノ元氣ヲ活躍セシメ得ルハ最モ適當ナル夏季休暇ノ利用法ナリ三學年生以下ノ生徒ニハ事情止ムヲ得ザルモノ、外ハ皆出向セシメ四學年以上ニハ成ルベク出向ヲ勸ム費用ハ從來ノ例ニ徵スレバ二週間往復ノ旅費共ニ五圓内外ナルガ將來月賦ヲ以テ徵收シテ出向者ノ一時負擔ヲ輕カラシメン考ナリ
 今明治三十九年以降ノ水泳成績比較表ヲ舉グレバ左ノ如シ

年 度	要 項			水 泳					成 績		
	在籍生徒數	出席生徒數	受驗生徒數	三里	二里半	二里	一里半	一里			
三十九年	一四一	九七	九三						町廿五町廿 町十五町干 町九町以下 平均		
四十年	二二一	一二七	一二三				四六	二七	三	二〇	二七二六、〇七
四十一年	二九三	一三九	一二四	七	二	一	一八	五	五三三	四三五	一四二四、四七
四十二年	三五二	一四四	一三四	一四	二	五	一一五	七三七	一六	三一	二二三三、三六

第六章 學用品取扱及學費概算

一、學用品取扱

學用品ノ種類及品質ハ各教科受持教官ニ於テ決定シ學用品係(二名)ハ之ヲ各商人(二名以上)ニ見積ラシメ其最モ適當ナルモノヲ購入シテ各生徒ニ支給ス當校ガ此方法ヲ取レル理由ハ凡ソ左ノ如シ

1. 學用品ノ様式、品質等ノ統一ニ便ニス(授業ニ便ニシ奢侈品ヲ戒ムル等教授訓練ニ與フル利頗ル大ナリ)

2. 適當ナル學用品ノ敏速ナル支給ヲナスヲ得(箇人渡ノ方法ハ隨時支給ナレバ生徒ハ必要ト同時ニ物品ヲ入手スルヲ得)

3. 學用品ノ濫費ヲ防止ス(支給方法ノ項參看)

4. 多數購買ノ結果自カラ廉價ニ支給スルヲ得(市價ヨリ約一割低廉ナリ後項價格表參看)

支給ノ方法ハ分テテ二トス

1. 「箇人渡」ハ請求用紙ニ其品目、員數、學年氏名ヲ記入シ之ヲ學年主任ニ差出シテ其認印ヲ受ケ(學年主任ハ此際必要ニ應ジテ學用品使用ノ程度方法等ニツキテ訓諭ヲナス)更ニ學用品係ニツキ其交付ヲ請ハシム

2. 「共通渡」ハ學年主任又ハ教科受持教官ノ請求ニ由リテ生徒一般ニ交付スルモノトス
學用品トシテ選定シタルモノハ左ノ如シ

筆、鉛筆、ペン軸、消ゴム、墨、硯、ペン先、インキ、繪具、コンパス、洋半紙、半紙、洋野紙、畫用紙、吸墨紙、大小ノート等

其費用ハ毎月參拾錢(第一學年ニ限リ五拾錢)ノ豫算ヲ以テ徵收シ每學期末決算ヲナス
終リニ臨ンデ學用品價格表ヲ舉ゲ其市價トノ比較ヲ示スコト左ノ如シ

品目	小賣市價	改正定價	品目	小賣市價	改正定價
水筆	六〇	四五	吸墨紙	三五	三〇
眞筆	三五	三〇	墨インキ	五〇	四五
鉛筆	二五	二〇	赤インキ	五〇	四五
Gペン	一〇	六	雜記帳	七〇	六五
Sペン	一五	一二	運算帳	一二〇	一〇〇

ペン軸	五	四五	大學ノート	六五	六〇
銀行ペン	五	五	作文帳	六五	六五
消ゴム	五〇	四	習字帳	六〇	六〇
小ノート	三五	三〇	和紙筆記帳	六五	六五
修身帳	—	六五	洋半紙	二二	二〇
半紙	三二	三〇	畫用紙	四〇	三五
洋野紙	三〇	二六	水彩畫用紙	六〇	五五
墨	一五〇	一二二	色鉛筆六本入	一五〇	一四〇

カクテ尙學用品濫費ノ弊ヲ防ガンガタメ一ヶ月ノ消費高五十錢以上ニ及ベルモノハ學用品係ヨリ學
年主任ニ報告シ學年主任ハ生徒ニ注意ヲ與フルモノトス

二、學費概算

種目	年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
授業料	一六、五〇 <small>月額一五〇</small>	一六、五〇	一六、五〇	一六、五〇	一六、五〇
校友會費	三、二〇 <small>月額二〇及入會金</small>	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇
學用品費	五、五〇 <small>月額五〇</small>	三、三〇 <small>月額三〇</small>	三、三〇	三、三〇	三、三〇
教科書費	四、〇〇	六、二八	六、〇〇	六、七五	八、三〇
修學旅行費	—	—	—	五、八〇	七、〇〇
臨海授業費	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
被服費	一九、五〇	六、四五	一三、三〇	七、四五	七、四五
計	五四、七〇	四〇、七三	四七、三〇	四八、〇〇	五〇、七五
					二四一、五一

平均ヶ月
概算

五、〇〇

三、六〇

四、三〇

四、四〇

四、六〇

二三八

即ち中學生ノ學費ハ五學年ヲ通シテ凡ソ二百五十圓ヲ要スルヲ見ル然レドモコレ只最低額必須品費ノミ且通學生トシテノ學費概算ノミ若シ遠隔ノ地ヨリ入學スルモノハ更ニ入舍ヲ要スルコト、テ其費用五ケ年ノ概算約四百五十圓ヲ加フレバ實ニ七百圓ニ及バントス中學校ノ教育モ亦決シテ廉價ナリト云フ可ラズ乃チ入學生ノ選抜ニ際シ資産ノ一項ニ注意セザル可ラザルハ之ニヨリテモ知ルヲ得ベシ當校ニテハ從來學費缺乏ノ爲ニ半途退學者ヲ出シ、コトナシトイヘドモ中ニハ學費ノ裕カナラザルモノモ亦少シト云フベカラズカクテ中等教育ノ改良ハ内容上ニ於ケルモノモ急務ナリトイヘドモ亦年限ノ短縮、廉價ノ教育法ノ如キモ識者ノ一考ヲ要スルコトナルベシ況ンヤ學業不進ニシテ原級ニ留マルガ如キ生徒ニ於テハ其負擔ガ益々増加スルハ免ガレ難キ所ナルニ於テヲヤ

第七章 寄宿舍

第一節 編制

寄宿舍ノ編制ハ第一、第二寄宿舍共ニ學年ノ相近キモノヲ以テ同舍ニ收容スル主義ヲ取り、第一舍ニハ第三四五學年第二舍ニハ第一二學年ヲ收容シ各室ニ於ケル生徒ノ配當モ亦此主義ニヨリ同一學年ノ

モノ、中左ノ諸條件ヲ參酌シテ一室ヲ編成セリ

一、性 行

一、學科成績

一、嗜好及趣味

一、出身地

一、親族關係

一、將來ノ目的

一室ノ定員ハ四人トス(但シ第二寄宿舍ハ既設ノ建物ヲ費用セルヲ以テ此定員標準ニヨリ難シ)今現在ノ編成ヲ示セバ左ノ如シ

第一寄宿舍 四十四人

第一室 第五學年 四人

第二室 第四學年 全

第三室 第五學年 三人

第四室 全 四人

第五室 第四學年 三人

二三九

第六室	全	四人
第七室	全	全
第八室	第三學年	三人
第九室	全	四人
第十室	全	三人
第十一室	全	四人
第十二室	全	全
第二寄宿舎	四十六人	
第一室	第二學年	十人
第二室	第一學年	六人
第三室	第二學年	十人
第四室	第一學年	五人
第五室	第二學年	十人
第六室	第一學年	五人

此編制ハ毎年一回、期ヲ定メテ變更スルモノトス

尙日常監督ト舍生トノ間ニ介シテ諸種ノ任務ヲ取ルタメ生徒中ヨリ左ノ役員ヲ置キ監督之ヲ任命ス
ノ任期ハ一ケ年トス

室長	各室一人
副室長	各室一人(但シ定員六人以上ヲ以テ室ヲ編制シタル場合ニ限ル)
圖書係	各舍三人
運動係	全上
舍誌係	全上
時間係	全上
炊事係	全上

第二節 教養ノ主義

寄宿舎ノ舍生ニ於ケルハ三様ノ職能ヲ有セルヲ見ル即チ一面ハ彼等ノ家庭タリ一面ハ彼等ノ校外團タ
リ又一面ハ彼等ノ小社會タリ是ニ於テ寄宿舎教養ノ方針モ亦此三者ノ特質ヲ調和案排セルモノナラザ
ルベカラズ蓋シ家庭ノ生活ハ私生活タリ感情的親和的ノ生活タリ箇人的教養ノ場所タリ此點ヨリ寄宿
舎ハ彼等ニ向ツテ其終日ノ勤學勞苦ニ對スル慰藉安息ノ席タルト共ニ又箇人訓練ヲ施ス地タラザルベ
カラズ次ニ校外團ノ生活ハ半公半私タリ學校教育ノ主旨ヲ体得實行シツ、又家庭的色彩ヲ加フルヲ其

特徴トス此點ヨリ寄宿舎ハ彼等ニ向ツテ校外團監督ト同ジキ要求ヲナシ學校教育ノ効果ヲ增進擴大セシメザル可ラズ而シテ最後ニ小社會ノ生活ハ公生活タリ理性的奮闘的ノ生活タリ團体的訓練ノ場所タリ此點ヨリ寄宿舎ハ彼等ニ向ツテ有機的統一アル團體ノ一員トシテ行動スルコトヲ命ゼザルベカラズ而シテ此ノ如ク相異レル三様ノ目的ヲ完成セシメンガタメニハ收容ノ人員ハ多キニ失スベカラズ又少キニ過グベカラズ教養ノ主義ハ私生活的ニ走ルベカラズ又公生活的ニ傾クベカラズ因リテ當校ニテハ前項ニ述ベシ如ク一舍生ヲ限ルニ約五十名ヲ以テシ家族の教養ヲ中心ノ主義トシツ、他ノ二者ヲ加味シ一方ニハ索寞枯淡無趣味殺風景ノ弊ヲ極ヒ一方ニハ放縱疎懶野鄙不規律ノ跡ヲ滅シ恩威相待ツテ以テ生徒ノ人格ヲ完成センコトヲ期セリ

第三節 教養ノ方法

1. 訓 育

寄宿舎ノ教養ハ其方面多端ナリト雖モ生徒訓育ノ樞機ヲ掌リ道德ノ實踐ヲ指導スルハ寄宿舎ニ於ケル唯一ノ任務ナリトモ云フヲ得ベシ舍内ニ於ケル生徒相互間ノ赤裸々ノ交際、教官生徒間ノ隔意ナキ接觸皆是箇性ヲ認メ操行ヲ知り訓諭ヲ加ヘ指導ヲ與フルニ便セザルハナシ其實行方法ノ中主要ナルモノヲ擧ゲン

イ、朝禮 朝食前

ロ、夜禮談話 就寢前監督之ニ當リ時ニハ生徒ヲシテ代ラシム

ハ、監督講話 土曜日ノ夜ハ大概簡單ナル茶話會ヲ開キ笑談款話スルヲ常トシ其際監督ハ適宜講話ヲ試ム其材料ハ單ニ道德的訓話ノミニ止メズ廣ク歴史的事實社會ノ出來事等凡テ智徳修養ニ關スルモノヨリ採リ又時ニハ本校及ビ當校教官ノ講話ヲ聽カシムルコトアリ

ニ、箇人訓練 一名又ハ二名位宛順番ニ監督室ニ招キ懇話シ修養ノ方針ヲ示シ又ハ訓誡忠告ヲ加フホ、服裝 居常著袴セシメ服裝ヲ正シクシ容儀ヲ整フルコトニ注意シ登校ノ際ハ舍生ヲシテ互ニ相検査セシム其他靴、ゲートルノ修理手入等ハ自ラ之ニ當ラシメ又青年ノヨク等閑ニ附スル机上、居室及下駄ノ整頓等ニ注意セシム

ヘ、起居 時間ノ規律ハ學生ニ取リテハ特ニ大切ナルモノナレバ季節ニ依リ多少ノ異動ハアレドモ大略左ノ標準ニ據ル

	起床		一、二年	三年以上
全	七時始業ノ時	午前五時半		午前五時
全	八時始業ノ時	全 六時		全 五時半
全	九時始業ノ時	全 六時半		全 六時

朝禮及朝食	起床後三十分
夕食	午後五時又ハ五時半
自習	自午後六時半至八時半
夜禮	午後九時
消燈	夜禮後三十分

2. 体育、衛生

兩舎共ニ運動場ノ設備完全ナラザルヲ以テ舎内ニテハ未ダ十分ナル運動ヲ行ハシムルヲ得ザレバピンボン、角力、庭球等ニ止メ學校所定ノ科外運動後尙一時間隨意運動ヲナスコトヲ獎勵セリ其他ニ舉行セル事項ハ概テ左ノ如シ

- イ、毎朝冷水浴(又ハ冷水摩擦)ヲ行ヒ、毎朝及毎夜就寢前、深呼吸及ビ簡易ナル体操ヲ行ハシム
- ロ、毎月約一回全生ノ遠足ヲ行ヒ夕食後ハ時々監督引率ノ下ニ散歩ヲ行フ
- ハ、諸種ノ遊戯及作業ヲ行ハシム
- ニ、各室當番生ヲ定メテ毎朝掃除セシメ土曜日ニハ大掃除ヲナサシム
- ホ、隔日入浴セシメ又寢具ヲ乾シ、洗濯ヲナス日ヲ定メ舎生ヲシテ自ラ之ニ當ラシム

3. 學 習

學習ハ正科ノ豫習復習ヲ主トシ自習時間中ハ嚴ニ靜肅沈黙ヲ守リテ之ニ從ハシム然レドモ初年級ニアリテハ未ダ自習ニ慣レザルヲ以テ監督ハ隨時豫習復習ノ方法ヲ指導シ、又自習時間中ハ時々室内ヲ巡視シテ適當ノ注意ヲ與ヘ自習時間後ハ便宜質問ニ應答ス正科學習ノ餘暇ニハ可成所定ノ科外讀物ヲ閱覽セシメンガタメニ各種ノ書籍雜誌類ヲ讀書室ニ備ヘ附ケタリ又作文ノ練習トシテハ雜誌体ノ文集ヲ編纂シ談話ノ練習トシテハ茶話會夜禮談話等ヲ試ミシム又學科劣等ニシテ寄宿舎ニ於テ補習スベキ必要アリト認メラレタル生徒ニ對シテハ該學科擔任教師監督ノ下ニ相當ノ教師ヲ求メ寄宿舎内ニ於テ自習時間ノ一部ヲ割キテ補習教授ヲナセリ

4. 娛樂ノ設備及趣味教育

終日教室ニアリ校庭ニアリ勤勞ト運動トニ疲勞セル生徒ノ身心ヲ慰メンニハ高尚ナル娛樂ヲ與フルニ如クハナシ常ニ快活ナル品性ヲ持シ、優雅ナル心情ヲ保タシメンニハ高尚ナル趣味教育ヲ授クルニ如クハナシ人生ハ嶮難ナリ又繁劇ナリヨク此中ニ立チテ時々花ニ灌ギ木ニ培ヒ山ヲ品シ水ヲ評スル餘裕ヲ有セズンバ精力早ク消耗シ器局遂ニ狭小ニ陥リ復大事ヲ就スニ足ラザルベシ乃チ寄宿舎ニテハ務メテ意ヲ此方面ニ用フレドモ經濟ノ關係上、諸般設備ノ未ダ完キヲ得ザルハ常ニ遺憾トスル所ナリ現今實行セルモノハ左ノ如シ

イ、室内遊戯 ハーモニカ、將棋類、カルタ、トランプ、ビンボン、雷落シ、電信遊ビ、羅漢廻シ、手品等、此等ハ平日、自習時間外ニ娛樂室ニテ行ヒ又ハ茶話會後ノ餘興トシテ行フ

ロ、會合 茶話會、晚餐會、遠足、散步、祝祭日及ビ舊來ノ習慣ニヨル祝日ノ娛樂的會合(例ヘバ端午ノ粽餅、年末ノ餅搗等)等

ハ、食事 青年ノ娛樂ハ主トシテ飲食ニアルコトハ論ナケレバ可成割烹調理ノ方法ニ變化アラシメテ生徒ノ趣味ニ適合セシメ費用ノ許ス限リ、佳味ヲ薦メテ生徒ノ嗜好ニ投ジ且ツ食堂ニハ時花ヲ插ミ樂器ヲ供ヘ團坐談笑ノ中ニ食事セシムルコト、シ舍生ヲシテ食事ヲ樂時ナリト思ハシムルコトニ勉メ又毎月二回位晚餐會ヲ開クコト、セリ、間食ニツキテハ未ダ良法ヲ得ズ從前ハ毎日午後一回約二錢位ノ菓子ヲ與ヘシガ成績餘リ良好ナラザリシカバ今ハ之ヲ廢シ所定ノ時間、所定ノ場所ニ於テ五錢以内ノ間食ヲ許スコト、シ寄宿舍指定ノ商人ヲシテ菓子果實ノ類ヲ賣捌カシム

ニ、裝飾 室内ハ清潔ニ掃除セシメ繪畫、扁額、盆栽、花瓶等ヲ排置シテ美觀ヲ呈セシム

ホ、作業 室外ニテハ庭園、菜圃ノ手入、養鶏、養兔等ノ勞作ニ從ヒ不知不識、自然ニ對スル趣味ヲ涵養セシム

ヘ、寫生、寫真、遠足、散步等ノ際之ヲ試ミシム

ト、誕生日祝 在舍生ノ誕生日ニハ其都度晚餐會ヲ催シテ互ニ祝意ヲ表セシム

チ、寄宿舍日誌ノ記載及信書取扱

寄宿舍日誌ハ毎日當番生ヲシテ記載セシム

ソノ事項ハ

月日、曜日、天候、溫度

朝會談話、夜禮談話、舍生ヘノ來信

生徒間ノ事故 其他學校及社會ノ重要ナル出來事等トス

舍生宛ノ信書ハ凡テ監督ニテ受理シタル上當番生ヲシテ配布セシム

第四節 學費及金錢取扱

寄宿舍生一名ノ學費概算ヲ示セバ左ノ如シ

學費目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
授業料	月額一六、五〇	一六、五〇	一六、五〇	一六、五〇	一六、五〇
校友會費	月額二〇及入會金	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇
學用品費	月額五、五〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇

教科書費	修學旅行費	臨海授業費	被服費	舍費	食費	小遣錢旅費等	平均概算
四、〇〇	—	六、〇〇	一九、五〇	一六、五〇 月額一、五〇	六〇、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇
六、二八	—	六、〇〇	六、四五	一六、五〇	六〇、〇〇	一三、〇〇	一二、〇〇
六、〇〇	八、〇〇	六、〇〇	一三、三〇	一六、五〇	六〇、〇〇	一三、〇〇	一二、五〇
六、七五	五、八〇	六、〇〇	七、四五	一六、五〇	六〇、〇〇	一三、〇〇	一二、七〇
八、三〇	七、〇〇	六、〇〇	七、四五	一六、五〇	六〇、〇〇	一三、〇〇	一二、七五

青年ヲシテ自ラ多額ノ金錢ヲ所持セシムルハ彼等ヲ危險ニ陥ラシムル第一歩ナレバ當校ニテハ安リニ金錢ヲ所持スルヲ許サルル規程ヲ設ケタル程ナレバ寄宿舎ニテモ之ニ準ジテ生徒ヲシテ前述ノ學費ヲ

所持セシメズ一切監督ニ於テ之ヲ取扱ヒ毎月初旬父兄ヨリ送附シタルモノヲ保管シ必要ニ應ジテ隨時之ヲ支出スルコト、セリ

第五節 家庭トノ聯絡

當校寄宿舎ニ收容セル生徒ハ遠隔ノ地ニアリテ自宅ヨリ通學スル能ハザルモノヲ本體トスレドモ中ニハ教育上必要ナリト認メタルモノハ市内在住ノ者ニテモ之ヲ入舎セシメタルアリ後者ノ場合ニテハ特ニ家庭トノ聯絡ヲ嚴密ニシテ外出歸宅ハ勿論金錢ノ受渡ニ至ルマデ常ニ互ニ通報スルコト、シ又父兄ヲシテ成ルベク屢バ來舎シテ其實況ヲ目撃セシメ前者ノ場合ニハ通學生ノ家庭訪問ニ對シ毎年夏季一回監督ニ於テ其家庭ヲ訪問スル外常ニ書信ヲ往復シ又父兄會學藝會運動會記念式等アラユル機會ヲ利用シテ寄宿舎ヲ訪問セシメ舎生活ノ狀態ヲ知悉セシムルコト、セリ

生徒ノ外出ハ放課後(休日ハ朝食時)ヨリ門限時迄トシ外出ノ際監督又ハ舎長ニ届出デシム歸省ハ市内ノ生徒ハ毎日曜日午前十時ヨリ夕食時マデ市外ノ生徒ハ每學期一回乃至二回トシ特ニ急用大故等アル場合ニハ家庭ヨリ事由ヲ具シテ願出デシム

第八章 校友會

第一節 目的

校友會ハ本校、當校ノ職員、生徒、卒業生及當テ本校當校ニ緣故アリシ職員ヲ以テ組織スル團體ナリ
此團體ハ間接ニハ當校教育ノ後援機關トナリテ有力ナル補助ヲナシ直接ニハ會員相互ノ親睦ヲ圖リ修
德ノ工夫ニ學藝ノ練磨ニ身軀ノ鍛鍊ニ資セントスル重要ノ目的ヲ有スルモノニシテ校風ノ振起校紀ノ
振肅等一ニコノ團體ノ精神ノ趨向ニヨリテ決定セラル、モノナレバ當校ハ大イニ意ヲ此校友會ノ指導
ニ用ヒ其進歩發達ヲ促サンコトヲ期スルモノナリ

第二節 部 門

以上ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ四部門ヲ置ク

1. 學藝部 學藝ノ練磨研究ヲナシ其交誼ヲ厚クスル爲ニ次ノ會合ヲナス

學藝會

學藝大會

講談會

2. 雜誌部 毎年十二月之ヲ發刊シ左ノ事項ヲ記載シテ會員ニ頒布ス

論說、詞藻、通信、會報、雜錄

3. 運動部 各種ノ運動ヲ行ヒ及運動ニ關スル會合ヲ開ク部門ヲ分テテ次ノ八種トス

劍道部、柔道部、野球部、庭球部、蹴球部、漕艇部、水泳部、遠足部

4. 庶務部 物品ノ購入、會計ノ一切ニ任ズ

第三節 會員及役員

本會ノ會員ハ四種ニ分ル即チ本校職員又ハ職員タリシモノハ客員トシ當校職員又ハ職員タリシモノハ
特別會員トシ生徒ハ通常會員トシ卒業生ハ會友トス

總裁一名 本校長ヲ推載ス

會長一名 會務ヲ統理ス主事ヲ推載ス

部長四名 部務ヲ處理ス

幹事若干名 部務ヲ分掌ス

委員若干名 會務ヲ補助ス

部長及幹事ハ特別會員中ヨリ委員ハ通常會員又ハ會友中ヨリ共ニ會長之ヲ委囑ス

部長及幹事ノ任期ハ二ケ年委員ハ一ケ年トス

第四節 會 費

會費ハ毎月金貳拾錢トシ別ニ入會金壹圓ヲ徵ス

第二篇 普通教育ノ研究及教生指導

普通教育ヲ施ス學校ガ學校存立ノ目的タル普通教育ノ方法ヲ改良進歩セシメンガタメニ各種ノ方法ヲツクシテ其ノ研究ニ銳意熱心ナルベキハ固ヨリ理ノ當然ナレドモ當校ニ於テハ特ニ其ノ必要ヲ認ムルヲ以テ之ガ爲ニ諸種ノ方法ヲ取リテ聊カニテモ斯道ニ資スル所アラントセリ今左ニ其ノ大略ヲ記サン

第一章 研究機關及研究事項

第一節 教科目研究會

普通教育ノ聯絡統一上、各教科目ノ教授上ニ關スル事項即チ本校各教科目ノ教授上ニ關スル事項、附屬中小學校各教科目ノ教授法ニ關スル事項其他普通教育各教科目教授上ノ原理及實際ニ關スル一切ノ事項等ヲ研究センガタメ、修身教育科、國語漢文科、外國語科、地理歴史科、數學科、博物科、物理化學科、圖畫手工科、唱歌科、体操科ノ十教科目研究會ヲ設ク

但シ、倫理、論理、心理學及哲學ハ修身教育科研究會ニテ、言語學ハ外國語科研究會ニ於テ、法制經濟商業科ハ地理歴史科研究會ニ於テ、農業科ハ博物科研究會ニ於テ、天文氣象ハ物理化學科研究會ニ於テ、理科ハ博物科研究會及物理化學科研究會ニ於テ、家事科、裁縫科、手藝科ハ圖畫手工科研究會ニ於テ、音樂ハ唱歌科研究會ニ於テ之ヲ研究スルモノトス

教科目研究會ハ本校及附屬中小學校ノ職員ヲ以テ之ヲ組織シ、毎月一回以上會合シテ各會固有ノ目的ヲ達スル外ニ尙ホ本校及附屬中小學校ノ教育上ノ思想交換ノ上ニ少カラザル効果ヲ舉ゲ來リタルガ本學年マデニ各會ノ已ニ研究ヲ遂ゲ若クハ目下尙ホ研究シツ、アル主要ナル事項ヲ列舉スレバ大略次ノ如シ

一、修身教育科研究會

附屬中學校修身科教授要目。中學校修身科參考用圖書取調。文部省諮問小學校中學校高等女學校師範學校等ニ於テ修身科教授ヲ最適切有效ナラシムル方法。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中修身科及教育科教授要目ニ關スル意見。師範學校修身科及教育科教授要目。幼稚園ニツキ調査中

二、國語漢文科研究會

附屬中學校國語漢文教科書稿本編纂。豊岡中學校ヨリノ質問ニ對スル回答。文部省令第廿六號ニ對スル實施上ノ意見。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中國語漢文及習字科教授要目ニ關スル意見。附屬中學校國語漢文法科教授要目ニツキ審議シ之ヲ承認ス。國語漢文術語一定ノ件ニツキ審議中

三、外國語科研究會

附屬小學校高等科ニ隨意科トシテ英語ヲ課スル件。中學校ノ英文法會話譯解教授ニ關スル方法。中學校生徒ヲシテ英語科正課以外ニ讀書ノ趣味ヲ有セシムル方法。文部省諮問師範學校教授要目調査

委員報告中英語科教授要目ニ關スル意見。附屬中學校ニ於ケル英語教授ノ要旨。

四、地理歴史科研究會

附屬小學校ノ地理及歴史科取調。附屬中學校法制及經濟科教授要目。日本歴史術語稱呼取調。吉田東伍著大日本地名辭書ニ就キ畿内中國西海南海北陸諸道ノ地名調査。中學校地理及歴史科法制及經濟科參考用圖書取調。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中歴史科地理科商業科教授要目ニ關スル意見。附屬中學校東洋史教授細目

五、數學科研究會

文部省諮問尋常小學校第一學年及第二學年算術科ノ數ノ範圍擴張ニ關スル取調。小學校算術科教授用具ノ調査。中學校數學科教授參考用圖書取調。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中數學科教授要目ニ關スル意見。愛媛縣下ニ於ケル中等程度諸學校ノ數學科研究會ニ提出セラレタル問題ノ調査。小學校算術科教授用具。算術科ノ諸様式ニ就キ調査中

六、博物科研究會

附屬小學校理科教授細目。中學校博物科教授參考用圖書取調。附屬中學校博物科教授要目。中等教育ニ於ケル鑛物科ト化學科トノ關係ニツキ審議中

七、物理化學科研究會

附屬中學校ノ物理化學科取調。中學校ノ物理化學科參考用圖書取調。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中物理及化學科教授要目ニ關スル意見。物理科教授用備附器械ノ調査。化學ト鑛物トノ連絡會開催ヲ促シ臨時委員ヲ設ケテ調査シタルコト

八、圖書手工科研究會

附屬中學校圖書科取調。附屬小學校手工科中心教育學級設置取調。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中圖書手工科教授要目ニ關スル意見。附屬中學校手工科加設案。附屬中學校手工科教授要目。附屬小學校手工科教授要目。附屬小學校手工科中心學級設置

九、唱歌科研究會

附屬中小學校唱歌科取調。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中唱歌科教授要目ニ關スル意見。附屬中小學校唱歌科教授要目

十、體操科研究會

小學校ニ於ケル普通體操ト兵式體操トノ調和ニ關スル件。小學校及中學校ニ片假名信號ヲ課スル件。科外運動取扱方。本校體操科教授要項中柔道弓道及泗水術教授要旨取調。小學校遊戲ノ細目。文部省諮問師範學校教授要目調査委員報告中體操科教授要目ニ關スル意見。附屬小學校ニ於ケル遊戲調査

第二節 學部會

當校ニテハ從來普通教育研究會ナルモノヲ設ケ毎月一回以上會合シテ會員ヨリ提出セル研究報告書ノ批評及研究ヲナシ來リシガ昨年度ヨリハ之ニ代フルニ修身、國語漢文、英語、地理歷史、法制經濟、數學、物理化學、博物、圖畫、唱歌、体操ノ十一學部ヲ編制シ當該受持教官ヲシテ各之ニ屬セシメ毎月一回以上會合シテ教材教授法ノ研究、細目ノ編制、成績物ノ蒐集、其他各種ノ研究調査ヲナシ且又各學部間ニテ互ニ授業ノ參觀批評ヲナシ其ノ改良進歩ヲ圖ル事トセリ今昨年度ニ於ケル本會ノ事業ヲ列舉スレバ左ノ如シ

學部會	要項	研究授業
修身	各學年要目編纂法、修身科教授ノ主義方法 修身科參考書目、記念講話方案	五回
國語漢文	作文教授法、校歌選定ノ件、科外讀物(青梧)編纂 各學年共通成績物ノ蒐集	九回
英語	英語教授法 ジョンブル及ホワイトコンパニー會讀	五回
地理歷史	幻燈器械、下瞰圖、萬國年表調製ノ件 地理歷史思想界研究法	四回

第三節 研究報告

研究報告ヲ分チテ次ノ四種トス

- イ、各教官ハ校長又ハ主事ノ命ニヨリ又ハ各自研究題目ヲ定メ一學年間ニ一題以上ノ事項ヲ研究シ教務部長ヲ經テ主事ニ提出スルコト
- ロ、學部會ハ各種ノ研究調査及每學期末ニ其學期中ノ進度ヲ徵スルニ足ルベキ成績品ヲ蒐集シ教務部長ヲ經テ主事ニ提出スルコト
- ハ、甲乙兩組ノ編制法ヲ異ニセル學年ノ主任ハ毎年四月中ニ前學年ニ於ケル兩組ノ成績ヲ比較シテ教務部長ヲ經テ主事ニ提出スルコト

ニ、教務部ニ於テハ常ニ諸般ノ研究材料ヲ蒐集シ每學年一回功程及報告ノ編纂ヲナスコト
此等ノ研究調査ニ關スル事項ハ定規ノ研究會ニ於テ便宜會員ニ報告スルコト、ス左ニ今學年迄ノ研究

數物化	博物	体操
各學年計算力ノ比較 計算ノ際一般ニ陥リ易キ誤謬ノ調査	動物學教材ノ排列、標本製作保存法 實驗ノ方法	信號体操教授法、教授細目編纂
四回	五回	三回

題目ヲ舉ゲン

1. 中學校ノ修身科
2. 中學校ノ圖畫科
3. 唱歌教授法
4. 英語教授法
5. 中學校ノ寄宿舎
6. 地理科教授法
7. 數學教授法
8. 中學校ノ作文科
9. 英語教科書ニツキテ
10. 中學校ニ於ケル競技運動
11. 校園整理法
12. 中學校ノ修身科
13. 輓近理化學ノ進歩
14. 中學校ノ國語漢文教科書ニツキテ

15. 操行調査ノ方法
16. 教授法研究ノ方法
17. 劣等生特別教授ノ方法
18. 宿題ニ關スル調査
19. 復習試験及教材打合せノ方法
20. 小中學聯絡ノ方法
21. 作業科ニツキテ
22. 課外運動ニ關スル研究并其取締方法
23. 机榻整理ノ方法
24. 五學年ヲ通ジテ遠足及修學旅行ヲ課スル目的及其實施法
25. 寄宿舎ノ研究
26. 校外ニ於ケル生徒監督ノ方法
27. 校勢調査ノ方法

第四節 授業批評會

教授法ノ進歩ハ教材ノ研究、教授方法ノ工夫鍊磨ニ加フルニ他人ノ授業ヲ見其ノ長ヲ採リテ我ガ短ヲ

補正他人ノ批評ヲウケテ自己ノ缺點ヲ矯正シ又ハ長所ヲ發揮スル事ニヨリテ望ミ得ベシ此故ニ當校ニ於テハ各種ノ方法ヲ盡クシテ教材研究ノ時間ヲ與ヘ教授法ノ工夫鍊磨ヲ獎勵スルト共ニ左記三種ノ授業參觀法ヲ設ケテ教授法ノ改良進歩ヲ圖リツ、アリ

(イ) 研究授業 職員ハ抽籤ヲ以テ順次ヲ定メ毎月一回研究授業ヲ行フ、其教案ハ授業三日前ニ教務部長ニ提出シ部長之ヲ各教官ニ頒布ス授業時間ハ當該學級ヲ一時間早ク始業シ(從ツテ一時間丈早退セシム)全職員參觀ノ便ヲ圖ル、終業後批評會ヲ開キ當日ノ授業ヲ批評スル傍ラ當該學科教授法ニ關スル一般ノ意見所感等ヲ述ブ而シテ其ノ要點ヲ記錄スルタメ批評録ヲ備フ尙當日ハ附屬小學校職員ニモ通知シテ其列席ヲ求メ互ニ意見ヲ交換シテ兩校教授上ノ聯絡ヲ圖ル

(ロ) 各學部研究授業 各學部ニ於テハ毎月一回宛研究授業會ヲ開キ當該學科所屬職員之ヲ參觀シテ授業後批評會ヲ開ク之モ亦批評録ヲ備フ

(ハ) 授業參觀 各教官ハ每週一回以上互ニ他ノ授業ヲ參觀シテ其意見ヲ批評用紙(附録、諸帳簿様式類參看)ニ記シ教務部長ヲ經テ教授者ニ示シ以テ授業法ノ改良ニ資シ又、全般諸學科ノ教授法ノ大体ニ通ゼシムルヲカム

第五節 中小學聯絡會

中學校ト小學校トノ聯絡ハ現今教育界ニ於テ最モ重大ナル問題ナリ教材ノ内容ニ於テ教授ノ方法ニ於

テ或ハ又訓育ノ實際ニ於テ中學校ヨリ小學校ニ要求スル所アリ、小學校ヨリ中學校ニ望ム所アリサレバ兩校ガ相提携シテ教科ノ聯絡ヲ計リ教育ノ統一ヲナスヲ得バ、普通教育ノ理論及實際ノ研究ニ資スル所極メテ大ナルベシ當校ハ即チ附屬中小學校兩校職員ヲ以テ組織セル中小學聯絡會ヲ設ケ毎月一回之ヲ開キテ諸般ノ協議研究ヲナシ時ニハ名士ノ講演ヲ聽ク事トシ又、研究授業ヲ行フ際ハ兩校ハ互ニ相通知シテ其參觀及批評ヲ求ムルコト、セリ

本年マデニ本會ニテ開カレシ講演左ノ如シ

- 一、蘇國ノ歴史ニツキテ 北條校長
- 一、進化論大意 池田教授
- 一、一本脚ノ哲學 西教授
- 一、教育學解說 春山教授
- 一、青年心理學 塚原教授
- 一、戰爭ノ研究 小林教授
- 一、獨逸學制概要 内海教授
- 一、寫眞術ノ歴史 長教授

第六節 評議會

教育ニ關スル重要ノ問題ヲ攻究スル機關ニハ評議會ノ設アリ主トシテ普通教育ノ目的、制度、教授、訓練及ビ教科用圖書等ニ關スル事項ヲ攻究スルコト、ナレリ其ノ會員ハ別チテ常任評議員、臨時評議員トス常任評議員ハ附屬中小學校ノ主事及校長ノ特選シタル教授トシ臨時評議員ハ臨時ノ須要ニ應ジ教授又ハ教諭、助教諭、助教諭、訓導若クハ之ニ準ズル者ノ中ニ就キ校長ノ命ジタル者トス評議會ハ毎月一回之ヲ開キ其ノ議案ハ校長之ヲ提出シ會議ハ校長之ヲ統ブ而シテ決議事項中必要ト認メタル事項ハ附屬學校ニ於テ之ヲ實地ニ施行シ又ハ特ニ之ヲ研究スルコトナレリ

明治三十九年六月第一回ヲ開キシヨリ四十二年十二月マデニ回ヲ重ヌルコト二十八其間ニ於テ評議シタル事項ノ主ナルモノヲ舉グレバ附屬中小學校ノ連絡ニ關スル件、教育演習ニ關スル件、体操科ノ目的及教授要目、附屬中小學校ノ學級編制ニ關スル件、中學校國語漢文科、英語科、歴史地理科、數学科ノ教授要目、師範學校各學科教授要目、附屬中學校補習科設置ニ關スル件等ナリトス

第二章 教生指導

高等師範學校ハ其當面ノ任務トシテ普通教育ノ教師ニ必須ナル身体知識道德ノ養成ヲ務ムルハ論ナキコトナルガ本校ト附屬中學校トノ關係ハ如何ナルベキカ固ヨリ劃然タル鴻溝ヲ設ケ得ベキモノニアラザレドモ大体ニ於テ本校ハ將來教師タルベキモノニ必要ナル實質ヲ附與シ附屬學校ハ之ヲ運用スル方

途ヲ授クルモノト見ルヲ普通ナリトセン即チ學問ニ技能ニ深遠ナル理法ヲ討究セシ本校生徒ヲシテ其智能ヲ傳達スル方法ヲ練習セシメ併セテ訓育管理ニ必要ナル手段方法ヲモ補習修得セシムルニアリ此意味ニ於テ當校ハ本校ト協同一致シテ左ノ各方法ニヨリ教生ヲ指導シ以テ中等學校ノ教師タルベキ資格ヲ一層完全ニセンコトヲ期セリ

第一節 教育演習

本校第三學年生徒ニ對シ教育演習ヲ課シ第三學期ノ大部分(中小學校各每週四日宛四週間)ヲ以テ之ニ充テ(其ノ一部分ハ各學部ノ授業アレドモ主トシテ直接ニ普通教育ニ關係アル事項ヲ教授ス)一月八日教育演習ヲ始ムルニ當リ校長ハ教生ノ心得トシテ第一、忠君愛國ハ普通教育ノ根本主義ナル事第二、生徒兒童ニ接シテ誠實間斷ナキ事第三、服務勤勉ナルベキ事等ニツキ訓示スル所アリ本校並ニ附屬學校教官ハ協同一致シテ教生指導ノ任ニアタリ銳意其効果ヲ收メンコトヲ期セリ

1. 練習授業 第二節ニ讓ル

2. 參觀、視察 實地授業ニツキ相當ノ經驗ヲ積ミタル後ハ地方ノ師範學校、中學校、高等女學校等ヲ參觀セシメ教授訓育等ニ關スル識見ヲ養成セシム又便宜、兵營、監獄署等ノ視察ヲ課シ世態ノ一般ニモ通ゼシメ以テ常識及ビ普通智識ノ養成ヲ圖ル

- 3. 課題 兒童生徒ノ簡性研究、修養ニ關スル書籍ノ解説、中等學校ニ於ケル訓育ノ方法等普通教育ニ關スル課題ヲ出シ論文ヲ提出セシム
- 4. 講話 主事及ビ當校各學科主任ニ於テ當校施設及ビ授業法ニ關スルコトヲ講話ス
- 5. 實務 中等學校ニ於ケル執務ノ一斑ニ通ゼシムルタメ或ハ當直トシテ生徒ノ看護ニ當ラシメ或ハ學年ニ配當シテ學年主任ノ職務ヲ補助セシム

第二節 練習 授業

教授ノ手段方法ハ教育ノ主要部分トシテ生徒教養ノ任ニアタル者ノ最モ意ヲ用ヒザルベカラザル事ナレバ教生ハ其ノ一般理法ト實際トニ通ジ將來教師タルニ至リ差支ナキ樣練習シ置カザルベカラズコノ故ニ當校ニ於テハ最初主事ヨリ當校施設ノ狀況ニ關シテ講話ヲナシ次ニ學科主任教諭ヨリ當該學科教授ノ實際ニツキテ毎日一時間宛解説ヲ試ミ又模範授業ヲ行ヒテ教授ノ經過ヲ説明シ工夫考案ノアル所ヲ明カニシ以テ教生ヲシテ理論ト實地ト相對照セシメテ其タドルベキ徑路ト手加減トヲ會得セシム斯クテ最初ノ二週間ハ全部ノ教生ヲシテ教案ヲ作ラシメ(以後ハ教授者ノミニ作ラシム)之ヲ當該學科主任ニ提出シテ其補正指導ヲ受ケシム學科主任ハ之ヲ本校教務課ニ送附シテ本校教官ノ列席ヲ求メ本校及ビ當校教官監督ノ下ニ教生ハ始メテ教壇ニ立チテ實地教授ノ工夫ヲ積ミ教授者以外ノモハニハ教官ト共ニ參觀セシメ授業後相集マリテ批評會ヲ開キ一方ニ於テハ見學ニヨリテ實地ノ作用ヲ會得セシム

ルト共ニ他方ニ於テハ豊富ナル教授上ノ識見ト銳利ナル批評眼トヲ備ヘシム
去ル三十八年度ヨリ四十一年度マデノ教生練習授業ノ狀況左ノ如シ
明治三十八年度

學科	部(人員)		國語漢文部 (七)	英語部 (二六)	地理歴史部 (二七)	數物化學部 (三〇)	博物部 (二七)	計(八七)
	國語漢文部	英語部						
國語漢文部	二〇							二二
英語部		二八						二八
地理歴史部			一		二二			二五
數物化學部						二四		二四
博物部							二七	二七
圖書					一	一		二
體操			二		一	二	三	八
計	二〇	二八	一		二二	二四	二七	一三五
平均	二、三	一、一			一、五	一、四	一、八	

明治三十九年度

學部(人員)	國語漢文部(二〇)		英語部(二二)		地理歷史部(二〇)		數物化學部(二五)		博物(二六)		計(九四)	
	漢國文語	英語	地理	歷史	數學	博物	體操	假設	計	平均		
國語漢文部	三〇											
英語部		六三										
地理歷史部			三三									
數物化學部					四六							
博物						四〇						
計	三〇	六三	三三		四六	四〇	七	二六	二四	二四五		
平均						三一						

明治四十年度

學部(人員)	國語漢文部(二二)		英語部(二〇)		地理歷史部(二四)		數物化學部(二五)		博物(一四)		計	
	漢國文語	英語	地理	歷史	數學	博物	體操	假設	計	平均		
國語漢文部	一二											
英語部		三一										
地理歷史部			二四									
數物化學部					二九							
博物						一四						
計	一二	三一	二四		二九	一四	七	三九	三四	三九四		
平均						三、三						

明治四十一年度

二六七

二六六

第二 諸調査統計表類

一、入學志願者數、合格者數累年比較表

括弧内ノ數ハ附屬小學ヨリノ入學者數ナリ、歩合ニハコノ數ヲ含マズ

年度	修了學校年ノ	志願者數	合格者數	志願者百ニ對スル合格者數	合格者數ノ百分比
三 八	高等小學二年	六九	二二	三一・八	二七・五
	高等小學三年	一二六	五五	四三・七	六八・七
計	其他六	四六	三	六・五	三八
	計	二四七	八〇	三二・四	一〇〇・〇
三 九	高等小學二年	六三(七)	一八(七)	二八・六	二五・〇
	高等小學三年	一五九	四三	二七・〇	五九・七
計	其他一	四五	一一	二四・四	一五・三
	計	二六七(七)	七二(七)	二六・九	一〇〇・〇
四 〇	高等小學二年	八八(八)	三一(八)	三五・二	四二・四
	高等小學三年	一五六(三)	三五(三)	二二・四	四八・〇
計	其他二	四二	七	一六・七	九・六
	計	二八六(一一)	七三(一一)	二五・五	一〇〇・〇

四 一	四 二
高等小學二年	尋常小學六年
高等小學三年	高等小學一年
高等小學四年	高等小學二年
計	計
七六(一一)	一一七(一一三)
一四五(五)	一四八(七)
二一	一六
二四二(二六)	二八一(二〇)
一七(一一)	一四(一一三)
三六(五)	三四(七)
一一	二
六四(一六)	五〇(二〇)
二二・〇	一一・〇
二四・八	二三・〇
五二・四	一一・五
二六・四	一七・八
二六・六	二八・〇
五六・二	六八・〇
一七・二	四・〇
一〇〇・〇	一〇〇・〇

二、生徒異動表

學年	學年	學年	學年	學年	增		減		原級	進級	現在
					前期生	入學	轉入學	轉退學			
第一學年	四十二年度	六	七〇	二		二		二			七六
第二學年	四十一年度 四十二年度	三一 一	八三	一	四	一	一	一	六	七七	七五
第三學年	四十一年度 四十二年 四十二年	五三 二	八四	二	二	三	一	二	三一	八〇 八四	八一
第四學年	三十九年度 四十一年度 四十二年	六二 四 五	七九	二	一	三	一	五	二	六五 七〇 七五	六一
第五學年	三十八年度 三十九年度 四十年 四十一年 四十二年		八〇	一	三	五	一	一	一	六一 四二 四五 五二 五八 六九	四四

附四

年	度	學年初在籍生徒數	增	減	學年末在籍生徒數	減少步合(百分比)
明治三十八年度		八〇	一	七	七四	〇・七五
明治三十九年度		一五三	一	一五	一三九	〇・九二
明治四十年度		二二三	二	一三	二二二	〇・四九
明治四十一年度		二九五	五	一三	二八七	〇・二七
明治四十二年度		三五七	二	二二	三三七	〇・五六

附五

四、學年ノ初終ニ於ケル生徒體格比較表

明治四十一年四月検査
明治四十二年四月検査
(ゴシック)

明治四十二年 四月ノ年齢	身長 センチメートル 差	體重 キログラム 差	胸圍 センチメートル 差
十四年	一三三・七・六 一四四・二	三二・五 三八・一	六六・一 六九・〇
十五年	一四六・六 一四九・二	三五・九 四一・五	六九・二 七四・〇
十六年	一四九・七 一五四・七	四〇・九 四六・二	七三・一 七六・四
十七年	一五五・二 一五九・六	四五・六 五〇・〇	七六・一 七九・三
十八年	一五九・七 一六一・七	五〇・五 五三・五	七八・九 八一・八
十九年	一六六・一 一六六・五	六〇・九 六四・〇	八九・〇 九〇・〇

五、當校 全國公立中學校生徒平均體格比較表

當校生徒 明治四十二年四月検査
全國公立中學校生徒 文部省第三十五年報ニヨル
(ゴシック)

年齢	人員	身長 センチメートル 差	體重 キログラム 差	胸圍 センチメートル 差
十三年	六〇二・三 六〇一・五	一三七・七・六 一三七・九	三二・九 三三・七	六六・五 六六・〇
十四年	一四九〇・七 一四九〇・五	一四三・三・四 一四三・八	三六・四 三五・六	六八・九 六八・四
十五年	二〇三三・八 二〇三三・三	一四九・二 一四八・二	四一・五 三九・九	七四・〇 七四・四
十六年	一九六五・六 一九六五・五	一五四・七 一五三・五	四六・二 四四・三	七六・四 七四・四
十七年	一六六一・六 一六六一・一	一五九・六 一五六・七	五〇・〇 四七・九	七九・三 七七・一
十八年	一一〇〇・二 一一〇〇・五	一六一・七 一五九・〇	五三・三 五〇・四	八一・八 七八・六
十九年	七〇七・五	一六一・五 一六〇・〇	五四・〇 五二・三	九〇・九 八〇・一

第五學年 寄宿生	一三三	六・九〇	一五七・八	五二・一	七一・九	一・一七	七・五〇
通學生	三三三	七・一二	一六〇・二	五一・七	八〇・四	三・七三	一八・二一

第三、諸帳簿用紙類様式

一、入學願書及附帶書類 (美濃紙)

入學願書及附帶書類

受驗票番號	注意方出差書願本		產資	出身學校長 記名調印	右記載ノ事項相違ナキコトヲ證ス 明治 年 月 日	入學願書									
	~ 校學身出	~ 者願志學入				卒業後ノ志望	履歷	族籍	現住所	出生地	原籍	奉還日	生年月日	氏名	善習
號	<p>(一) 入學志願者、本願書ヲ學校ニ提出シタル時ハ最近ノ成績及資産欄ヲ記入シテ直接當校ニ送附セラレタシ</p> <p>(二) 成績欄中「顯著ナル事項」ハ詳細ナランコトヲ望ム又本人自記ノ事項中、學校ノ所見ト同シカラザルモノアル時ハ其旨附記セラレタシ</p> <p>(三) 資産欄ハ、少クトモ其資産ガ中學校五ケ年ノ修業ニ堪フルカ否カラ明カニセラレタシ</p>		<p>(一) 入學志願者ハ本願書前半ノ各欄ヲ記入シタル後之ヲ在學又ハ最近ニ卒業セル學校ニ差出スベシ</p> <p>(二) 氏名ハ凡ベテ「フリガナ」ヲ附スベシ(地名ノ讀ミ難キモノモ亦全ジ)</p> <p>(三) 入學志願者ハ本願書ヲ差出スト共ニ直接當校ニ向ツテ左ノ二物件ヲ送附スベシ</p> <p>(イ) 戶籍吏ノ認證シタル戶籍謄本(家族全部ヲ表ハスモノ)</p> <p>(ロ) 本人單獨ノ寫眞(最近一年以内ノモノ)</p>	<p>操作 躰格 修身 國語 算術 日本地理 理科 圖畫 唱歌 躰操 手工 農業 商業 英語 總評 席次</p>	<p>明治 年 月 日</p>	<p>幼稚園</p> <p>尋常小學校</p> <p>高等小學校</p> <p>其他</p>	<p>家長職業</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>明治 年 月 日</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>
明治 年 月 日	<p>出身學校長 記名調印</p>		<p>入學志願者 記名調印</p>	<p>保人 記名調印</p>	<p>身體異狀</p>	<p>好メル學科</p>	<p>教科書以外ノ讀物</p>	<p>善習</p>	<p>惡習</p>	<p>本人ト關係</p>	<p>職業</p>	<p>現住所</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>
日引受	<p>取扱者印</p>		<p>人中ノ番</p>	<p>年 月 日</p>	<p>病氣</p>	<p>好メル學科</p>	<p>旅行又ハ居住シタル地</p>	<p>習慣</p>	<p>惡シキ</p>	<p>本人ノ</p>	<p>ニ當ル</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>	<p>縣 市郡 町村 番</p>

(廣島高等師範學校附屬中學校用紙)

人ノ本關係ト本人ノ	職業
ニ當ル	好マザル
	科

四、生徒日誌用紙 (洋紙綴縦六寸五分横四寸四分)

(セルシ日毎ニ瞭明ニ確正)

日		學
		大反 事省 記録
明治 年 月 日 候天 度温		誌

國語及漢文	八	第二寄宿舎監督	助教諭	高本千鷹	明治四十年三月	廣高師國語漢文部卒	全	四十年四月十一日
歷史地理	一二	圖書係監督	助教諭	桐谷岩太郎	全	全	全	全年全日
圖畫	一二	統計係	助教諭	山田權三郎	四十一年三月	東高師圖書手工專修科卒業	全	四十一年四月一日
英語	一四	第三學年副主任	助教諭	杉浦邦司	四十年三月	廣高師英語部卒業	全	四十二年一月十四日
數學	一六	第四學年副主任	助教諭	山本政人	全	全	全	年四月十日
國語及漢文	一八	第二學年副主任	助教諭	加藤虎之亮	四一年三月	全國語漢文部卒業	全	四十一年四月一日
博物	一六	統計係	助教諭	松原厚	全	全	全	全年全日
數學、物理及化學	一〇	第一寄宿舎監督	助教諭	小林致哲	全	全	全	全年全日
英語	一二	校外團監督	助教諭	丸山英一	全	全	全	全年全日
柔道			助教諭	長倉正次郎	四十二年三月	東高師文科兼修体操科卒業	全	四十二年四月十日
體操	一四	監督係	助教諭	富永堅固	全	全	全	年三月卅一日
國語及漢文	一六	第一學年主任	囑託	横手元仲	全	全	全	年四月一日
英語	一二		囑託	上田研甫	全	全	全	年三月全
體操	一四	監督係	囑託	三宅又吉	全	全	全	年三月全

附二〇

體操	六	會計係	託荒木治太郎	豫備陸軍歩兵特務曹長	全	全	全	四十一年五月卅一日
劍道		庶務係、舍務係、學用品係	林義一	後備陸軍歩兵曹長	全	全	全	四十二年六月一日
教務係		雇	囑託村田惟正		全	全	全	四十年十一月十一日
			村上衷		全	全	全	四十二年九月廿二日

附二一

第五、生徒及父兄職業別一覽

計	原籍地					學年	原籍地	學年
	廣島縣	廣島市	他府	他縣	計			
計	二四二	二七二	四〇〇	三〇〇	二二七	一	一	
	二七九	二二六	二四一	二四一	二二七	二	二	
	一三三	一四五	一八二	一七六	一七六	三	三	
	二六	三	一〇	七	二	四	四	
	二六	二	五	七	四	五	五	
	七	一	三	一	二	六	六	
	二五	三	二	九	八	七	七	
	七	一	二	三	一	八	八	
	一七	二	四	四	三	九	九	
	四四	五	八	八	二	一〇	一〇	
	八	一	三	三	一	一一	一一	
	八一	〇	一七	二二	一五	一二	一二	
	一四	一	五	八	一	一三	一三	
	五〇	九	〇	八	四	一四	一四	
	三四三	四五	六四	八二	七六	一五	一五	

計	原籍地					學年	原籍地	學年
	廣島縣	廣島市	他府	他縣	計			
計	二四二	二七二	四〇〇	三〇〇	二二七	一	一	
	二七九	二二六	二四一	二四一	二二七	二	二	
	一三三	一四五	一八二	一七六	一七六	三	三	
	二六	三	一〇	七	二	四	四	
	二六	二	五	七	四	五	五	
	七	一	三	一	二	六	六	
	二五	三	二	九	八	七	七	
	七	一	二	三	一	八	八	
	一七	二	四	四	三	九	九	
	四四	五	八	八	二	一〇	一〇	
	八	一	三	三	一	一一	一一	
	八一	〇	一七	二二	一五	一二	一二	
	一四	一	五	八	一	一三	一三	
	五〇	九	〇	八	四	一四	一四	
	三四三	四五	六四	八二	七六	一五	一五	

計	原籍地					學年	原籍地	學年
	廣島縣	廣島市	他府	他縣	計			
計	二四二	二七二	四〇〇	三〇〇	二二七	一	一	
	二七九	二二六	二四一	二四一	二二七	二	二	
	一三三	一四五	一八二	一七六	一七六	三	三	
	二六	三	一〇	七	二	四	四	
	二六	二	五	七	四	五	五	
	七	一	三	一	二	六	六	
	二五	三	二	九	八	七	七	
	七	一	二	三	一	八	八	
	一七	二	四	四	三	九	九	
	四四	五	八	八	二	一〇	一〇	
	八	一	三	三	一	一一	一一	
	八一	〇	一七	二二	一五	一二	一二	
	一四	一	五	八	一	一三	一三	
	五〇	九	〇	八	四	一四	一四	
	三四三	四五	六四	八二	七六	一五	一五	

第六、科外讀物書目

一、教訓類

一、二學年		三學年以上	
一 鳩翁道話	柴田武修	三 肉	彈 櫻井天壇
二 松翁道話	布施松翁	三 二宮尊德	碧瑠璃園
三 日本立志編	干河岸貫一	三 學年	大町桂月
四 日本偉人傳	富山房編輯所	二 學年	全
五 歐青年立身傳	根本 正	三 日本學生寶鑑	井上哲次郎
六 フランクリン少壯時代		四 四	書
七 グラッドストーン	徳富蘆花	五 益軒十訓	西田敬止
八 釋 迦	高山林次郎	六 修 養 錄	南條文雄
九 少年讀本	武島羽衣 外一名	七 西國立志篇	中村正直譯
十 少年文學		八 武士道叢書	井上哲次郎
十一 通俗倫理談	坪内逍遙	九 讀 書 法	澤柳政太郎

十 神經衛生 田村化三郎
 十一 偉人 耶蘇 北澤定吉
 十二 釋迦牟尼傳 井上哲次郎
 十三 孔子傳 蛭川龍夫
 十四 歐米公德美談

二、文章類

一、二學年
 一 福翁百話 福澤諭吉
 二 世界讀本 池邊義象
 三 少年文學 博文館
 四 家庭百話 樋口勘治郎
 三學年以上
 一 保元物語讀本 今泉定介
 二 平治物語讀本 全
 三 平家物語讀本 全

十五 獨立大國民 慶應義塾譯
 十六 我獨乙觀 戸田海市
 十七 武士道 新渡戸稻造
 十八 文學修法 澤柳政太郎
 十九 二宮翁夜話

四 太平記讀本 今泉定介
 五 今昔物語選 富山房
 六 花月草紙 全
 七 國語のため第一 上田萬年
 八 駿臺雜誌 室直清
 九 常山紀談 湯淺常山
 十 自然と人生 徳富蘆花
 十一 燕山楚水 内藤湖南
 十二 枕頭山水 幸田露伴

十五 花紅葉 武島外二氏
 十六 家庭歴史讀本 博文館
 十七 折焚く柴の記 新井白石
 十八 文學其折々 坪内逍遙
 十九 現代文鈔 吉田、三矢合編
 二十 徳川時代文範 岡田正美
 二十一 文藝講話 上田 敏
 二十二 名文評釋 國學院
 二十三 日本外史 頼山陽
 二十四 國文學史講話 藤岡作太郎

三、詩歌類

一 唐詩選國字解
 二 慷慨家詩集
 三 國詩會
 四 校注明倫和歌集

二十五 先哲叢談 原善
 二十六 注釋二日物語 幸田露伴
 二十七 靜思餘録 徳富蘇峯
 二十八 武士道 櫻井鷗村譯
 二十九 戊申詔書衍義 建部趣吾
 三十 狂言二十番 富山房
 三十一 元祿快舉録 福本日南
 三十二 生ひたちの記 徳田秋江
 三十三 文藝と教育 坪内逍遙

五 四方のあか 富山房
 六 万歳集才藏集選 全
 七 天地有情 土井晚翠
 八 蕪村句集講義 正岡子規

九國歌評釋 武島羽衣

十日本樂府 賴山陽

四、稗史小說類

- 一、二學年
- 一 少年世界文學 博文館
- 二 世界御伽噺 全
- 三 世界冒險譚 櫻井鷗村
- 三學年以上
- 一 小公子 若松殿子
- 二 ユーゴー小品 森田思軒

- 三 經國美談 矢野文雄
- 四 新曲浦島 坪内逍遙
- 五 水沫集 森鷗外
- 六 吾輩は猫である 夏目漱石
- 七 人の兄 堀内新泉
- 八 思出の記 徳富蘆花
- 九 大石内藏之助 絲園生

五、英語類

- 三學年
- 1. Kanda's Third Reader.
- 2. Inoue's 2nd and 3rd Reader.
- 3. Okakura's Globe Reader 3.

- 4. Kanda's English Grammar for Beginners.
- 5. Saito's English Lessons (New Edition).
- 6. Milford's 英文桃太郎, 猿蟹合戦.
- 7. Aesop's Fables.

8. 初等英語研究雜誌

四學年

- 1. De Roe's Robinson Crusoe.
- 2. Arabian Nights.
- 3. Peter Parley's Universal History.
- 4. Mac Caleb's American Social Life.
- 5. Red True Story Book.
- 6. Sansعيد's Selections from Cowper's Letters.
- 7. Sansعيد's Short Stories from English People.
- 8. Carpenter's Asia.
- 9. Tshida's Easy English Stories.
- 10. Shobido's Fifty Famous Stories.
- 11. Meiklejohn's Fables, Anecdotes and Stories.
- 12. Kobunshu's A Wonder Book for Boys and Girls.
- 13. Kron's English Daily Life.

五學年

- 14. Longman's Fourth Reader.
- 15. Books for Bairns.
- 1. Franklin's Autobiography.
- 2. Kingsley's Greek Heroes.
- 3. Dickens's A Child's History of England.
- 4. Animal Story Book Reader.
- 5. Swinton's The World's History.
- 6. Swift's Gulliver's Travels
- 7. Hawthorn's Biographical Stories.
- 8. Ruskin's King of the Golden Rivers.
- 9. Longman's 5th Reader.
- 10. 各種の Reader 4-5.
- 11. Stories from Cuore.
- 12. Arabian Nights Entertainment.

六、歷史類

13. Lamb's	The Adventures of Ulysses.	一、二學年	一 少年讀本	石川榮司	15. Plutark's	Greek Heroes.	五 近世人傑傳	山田香峰
14. Lamb's	Tales from Shakespeare.	一、二學年	二 國旗	石井研堂			六 志士人名錄	史談會
			三 明治事物起原	信夫恕軒			七 代表的日本人	大町桂月
			四 赤穂義士實談	大森金五郎			八 近古史談	大槻磐溪
			五 日本歷史談其折々	福田琴月			九 十八史略	史學會
			六 少年日本歷史	竹越與三郎			十 弘安文祿征戰偉蹟	久保天隨
			三學年以上				十一 武士道史譚	大分縣教育會
			一 二千五百年史	木村鷹太郎			十二 世界歷史譚	木崎好尙
			二 大日本建國史	落合直文			十三 十二文豪	熊田葦城
			三 新撰日本外史	芳賀矢一			十四 吉田松陰	德富蘇峰
			四 國民性十論				十五 勝海舟	全
							十六 ゴルドン將軍傳	德富蘆花

七、地理類

七 ケーザル傳	松本君平	十 半球周遊	楚人冠
八 リンコロン傳	松村介石	十一 西藏旅行記	河口慧海
九 ルーテル傳	村田勳	十二 蒙古及蒙古人	東亞同文會
十 ナポレオン傳	松村介石	十三 少年世界讀本	巖谷小波
三學年以上		十四 河及湖澤	志賀重昂
一 日本漫遊案内	坪谷善四郎	十五 天文學叢話	橫山又次郎
二 日本風景論	志賀重昂	十六 人類學叢話	坪井正五郎
三 日本の面影	末松謙澄	十七 地理學叢話	神保小虎
四 日本山水論	小島烏水	十八 少年世界物語	金子紫草
五 日本海周遊記	菊池幽芳	十九 歐米二萬三千哩漫遊	戸川秋骨
六 東へ東へ	小泉精三		
七 世界漫遊案内	坪谷善四郎		
八 趣味之歐洲	小田内通敏		
九 大英遊記	楚人冠		

八、博物學類

一、二學年		六 野外觀察	全
一 人類談	坪井正五郎	七 昆蟲生態學	矢澤米三郎
二 動物社會	石川千代松	八 人類界の現象	大島居辨三
三 動物の共棲	全	九 植物生態美觀	三好學
四 植物社會	三好學	十 印度熱帶植物奇觀	全
五 植物の感覺	全	十一 內外實用植物圖譜	齊田功太郎
六 螢の話	渡瀬庄三郎	十二 學藝叢書	
七 昆蟲の生涯	糟谷美一	十三 Natural History for Young People. Cassel.	
三學年以上		十四 普通動物の觀察	博物學研究会
一 一種の起原	丘淺次郎	十五 人と猿	田寺寛二
二 進化論講話	全	十六 自然の教訓	千野哲次
三 生物界之現象動物篇	安東伊三次郎	十七 生態學的植物觀	糟谷美一
四 同植物篇	全	十八 天界之現象	三澤力太郎
五 礦物界之現象	全		

九、体操科類

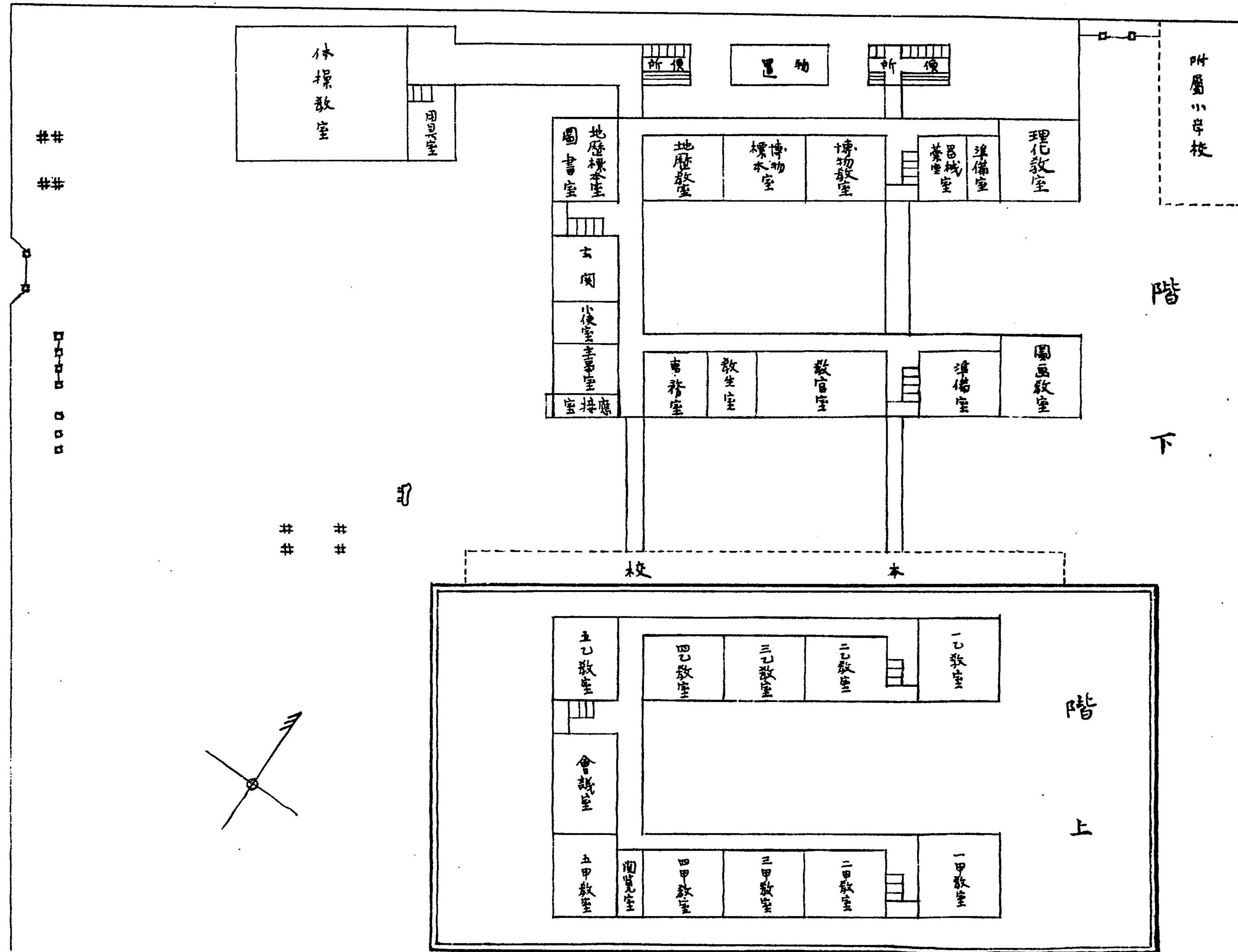
一 冷水浴ノ實驗ト學理	玉利喜藏	五 健康大觀	實業日本臨時增刊
二 修身衛生講話	三宅秀	六 心身少年競技運動	武田千代三郎
三 世界遊戲法大全	松浦政泰	七 強肺術	ペーグマン著 杉村縱橫補譯
四 二分間体操法	小出末三	八 少年體力養成法	造士會

總計 二百十種

廣島高等師範學校附屬中學校一覽終

廣島高等師範學校附屬中學平面圖

圖縮一、分百六



明治四十三年三月廿八日印刷
明治四十三年四月十一日發行

(定價金參拾貳錢)

廣島高等師範學校

印刷者 中田敬太

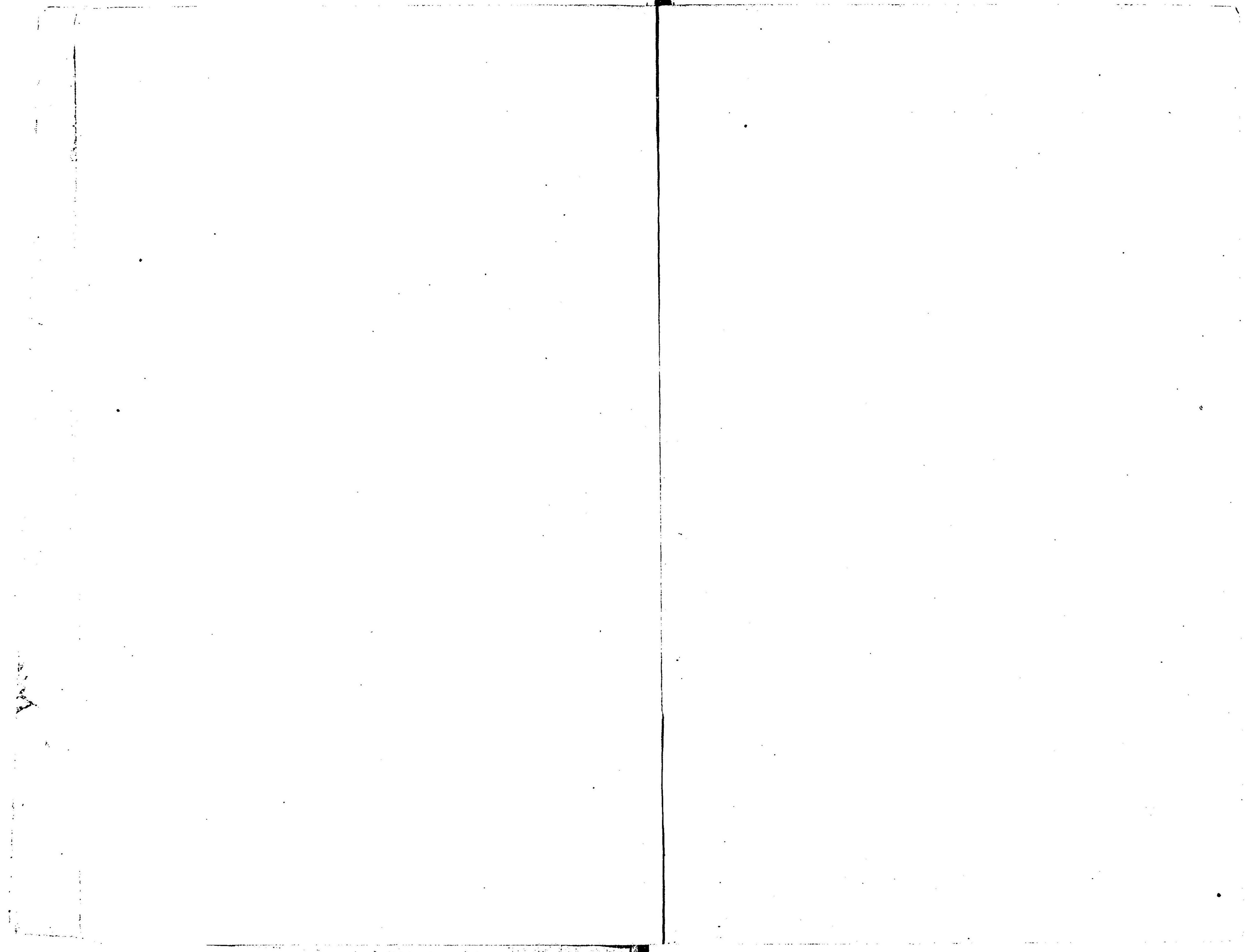
廣島市大手町九丁目廿九番地

印刷所 高坂印刷部

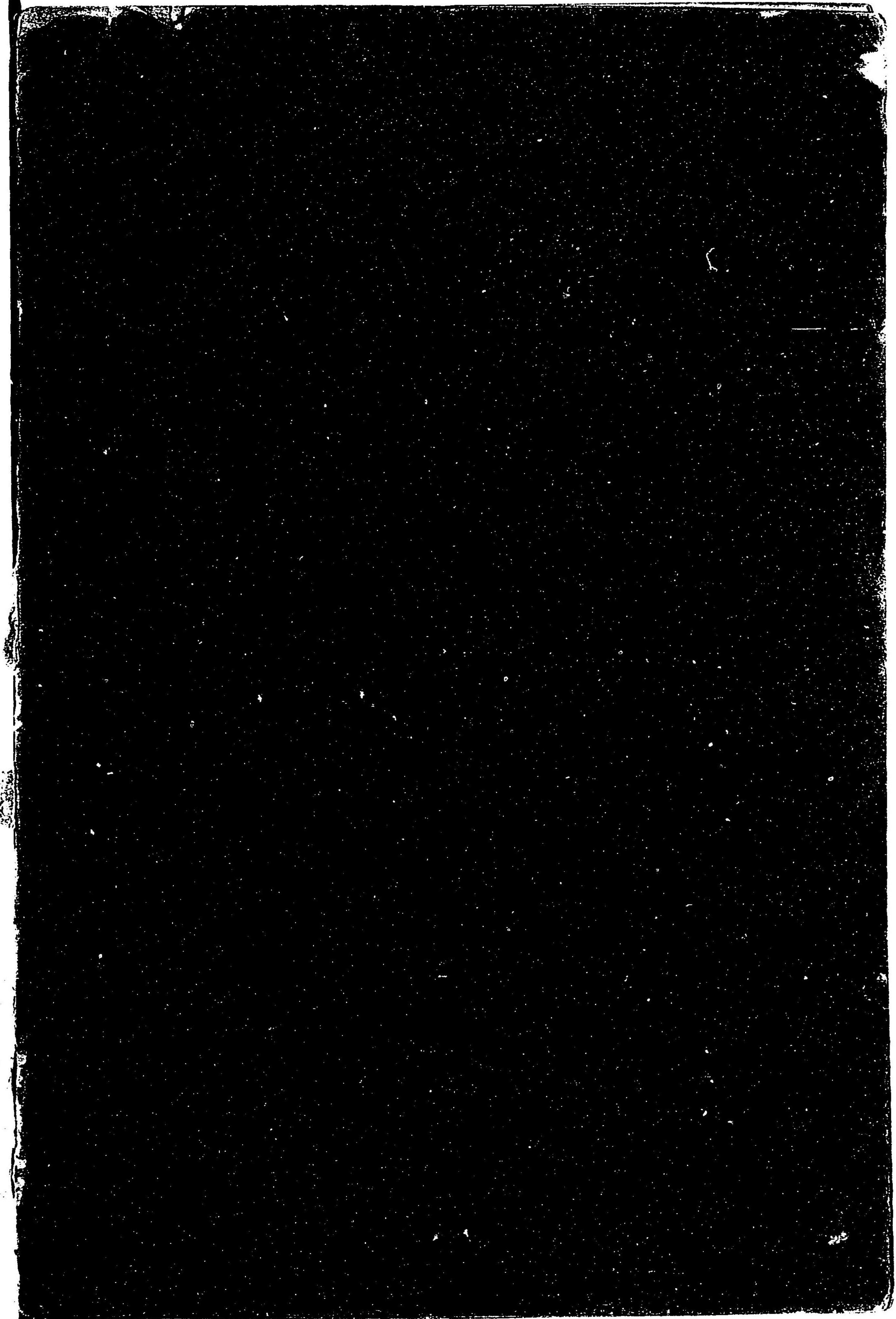
廣島市細工町九番邸

賣捌所 高坂商店

廣島市細工町八番邸



260
829



048971-000-4

特30-743

広島高等師範学校附属中学校一覽

広島高等師範学校

M43

BEJ-0806

